



丁三十  
七右

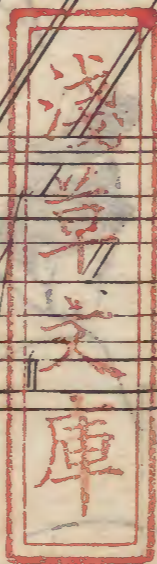


北野藁草圖書第一

○緣起諸本

菅原院之段

本宮内、陳藏本  
真寫抄出 天延一尺七寸



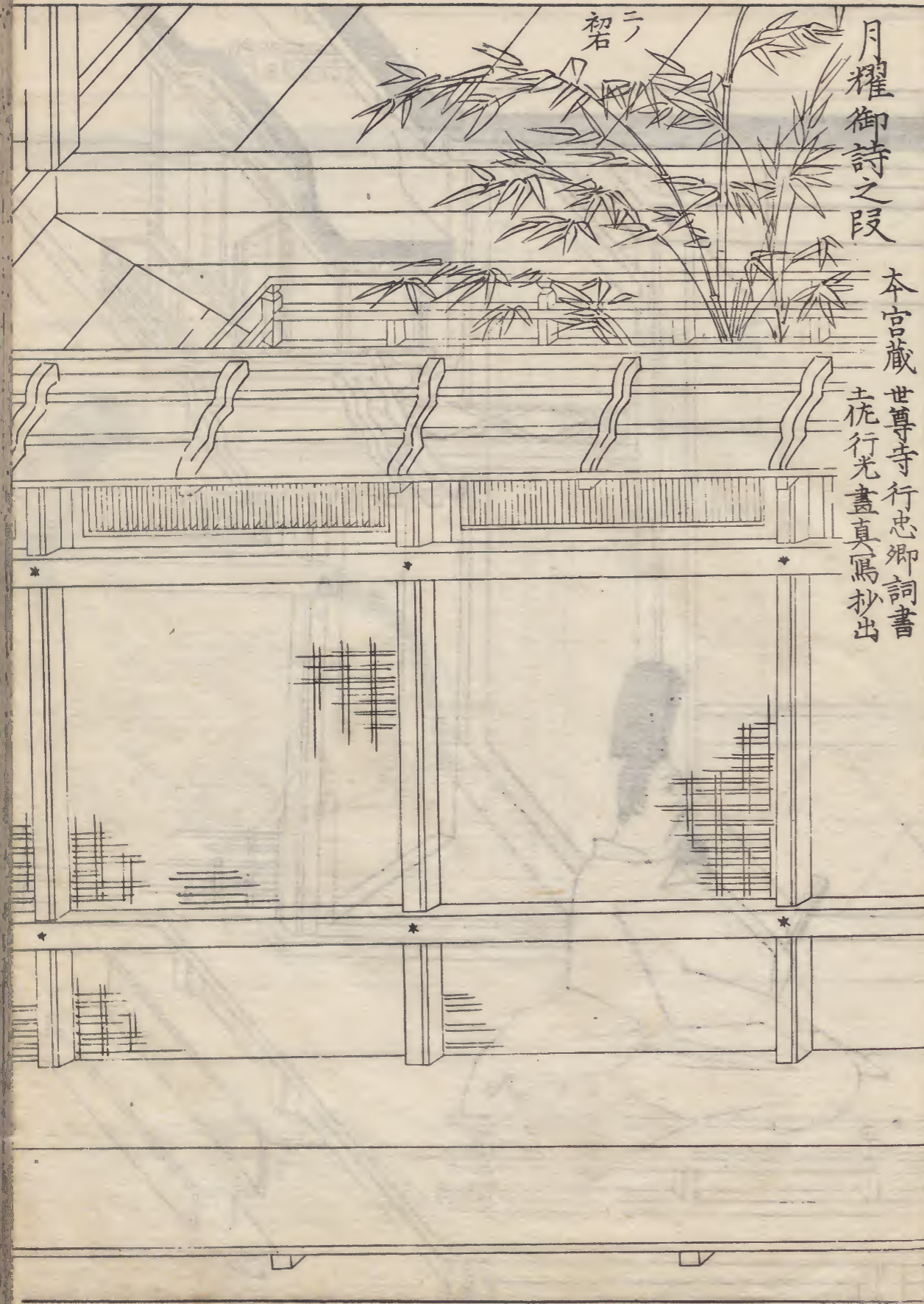


音原朝之頭  
○熟政詰本  
北條景春圖書



一五  
八右  
二三十  
五左

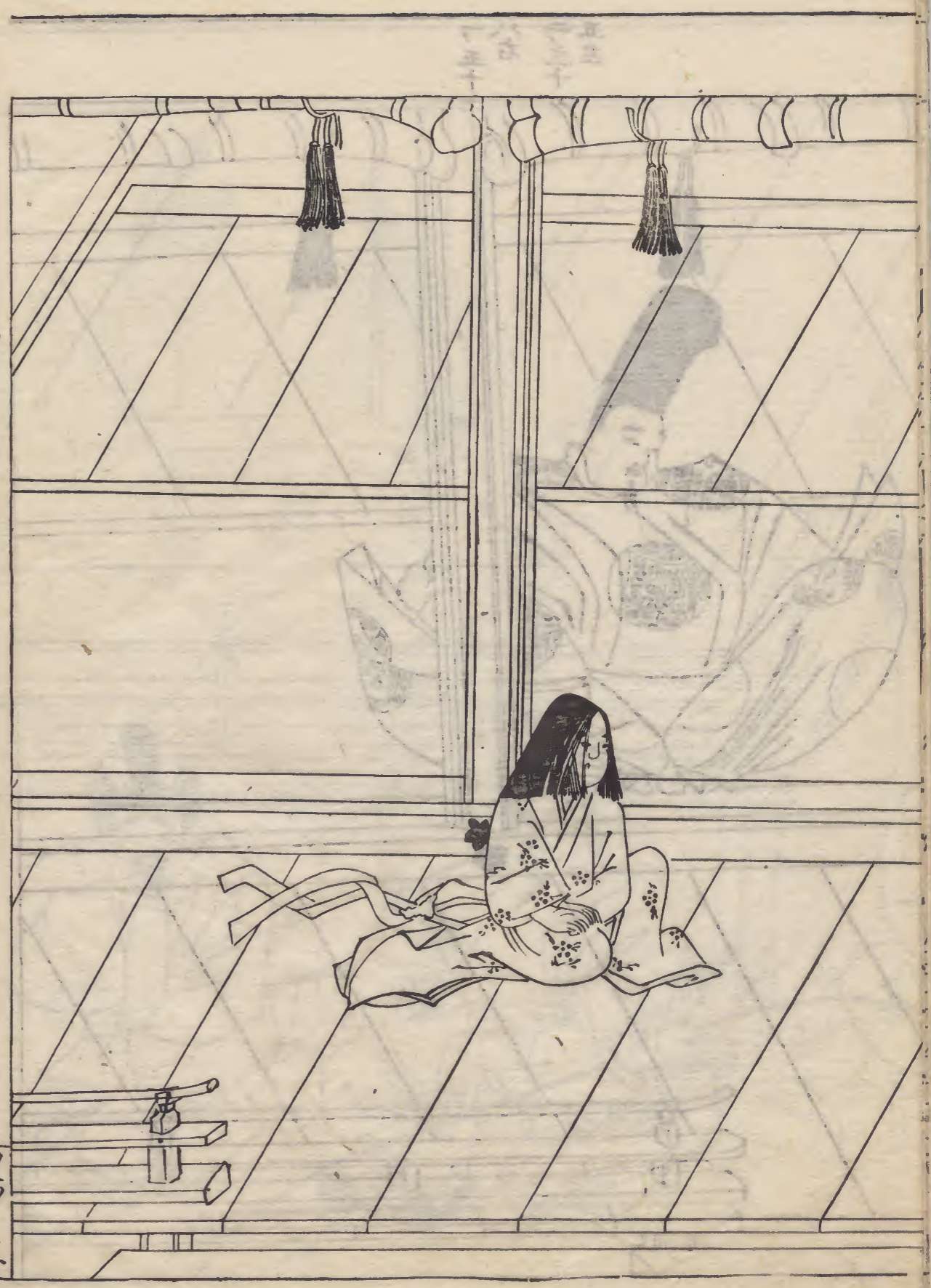


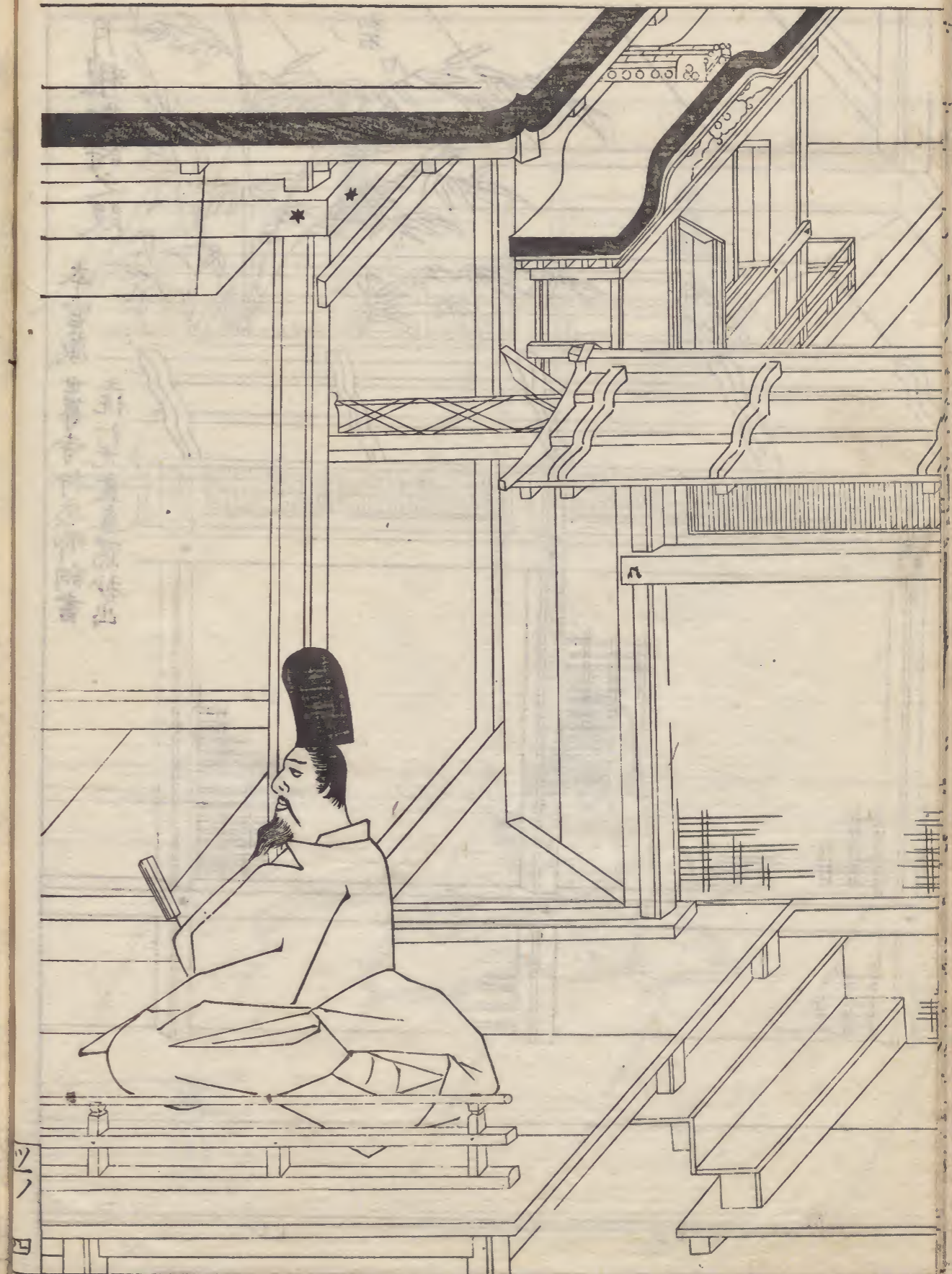


初

月耀御詩之段

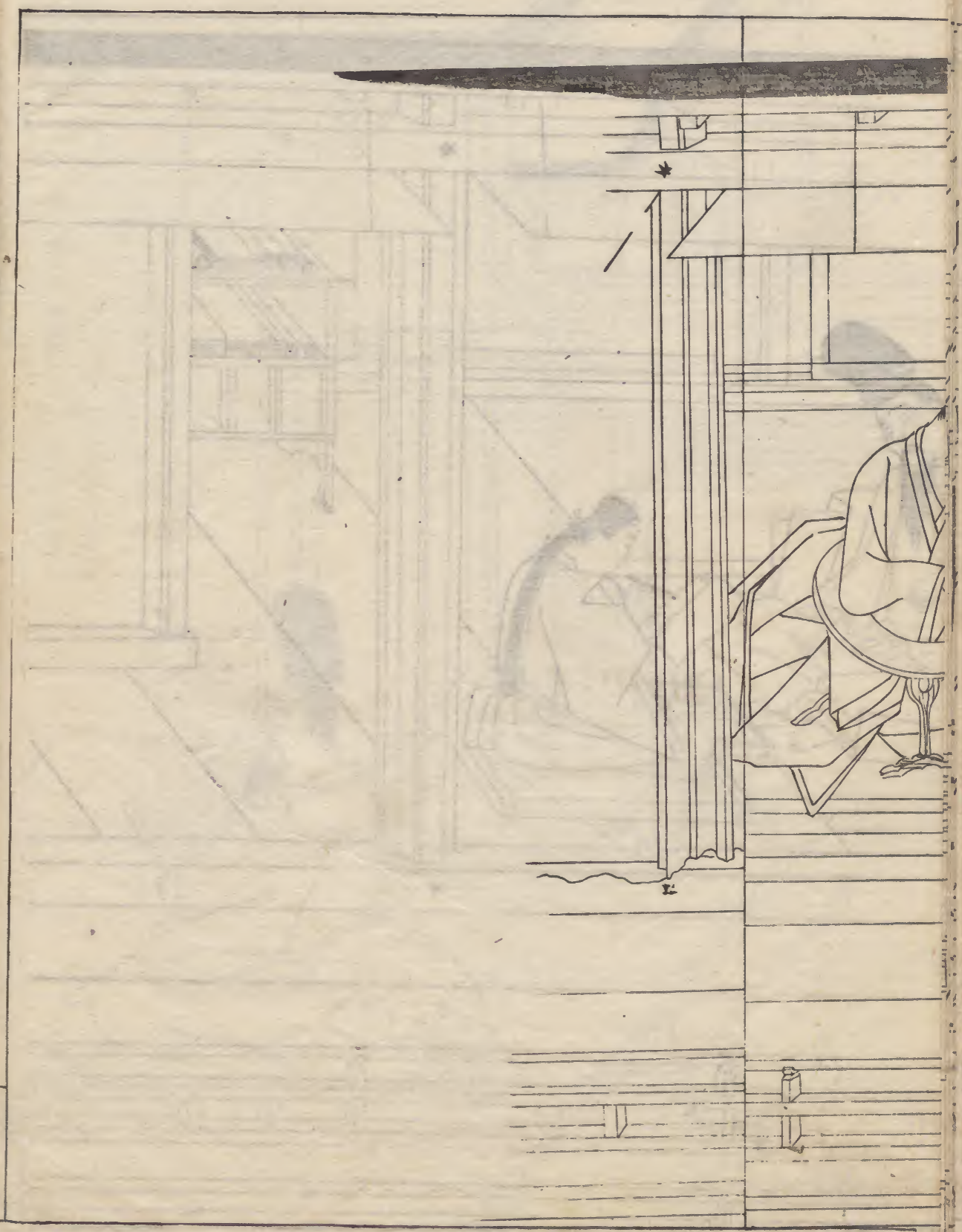
本宮藏 世尊寺行忠卿詞書  
土佐行光畫真寫抄出







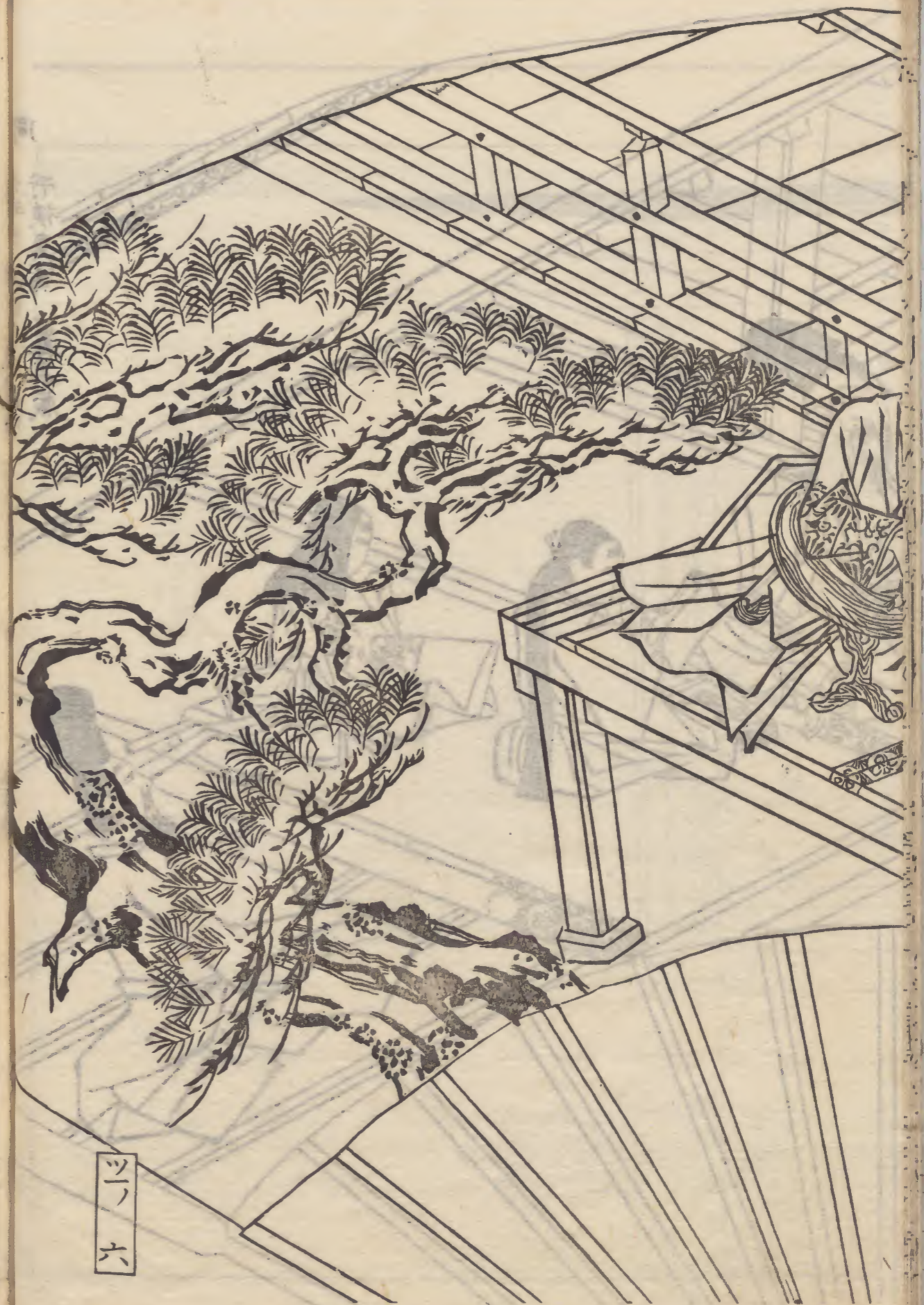
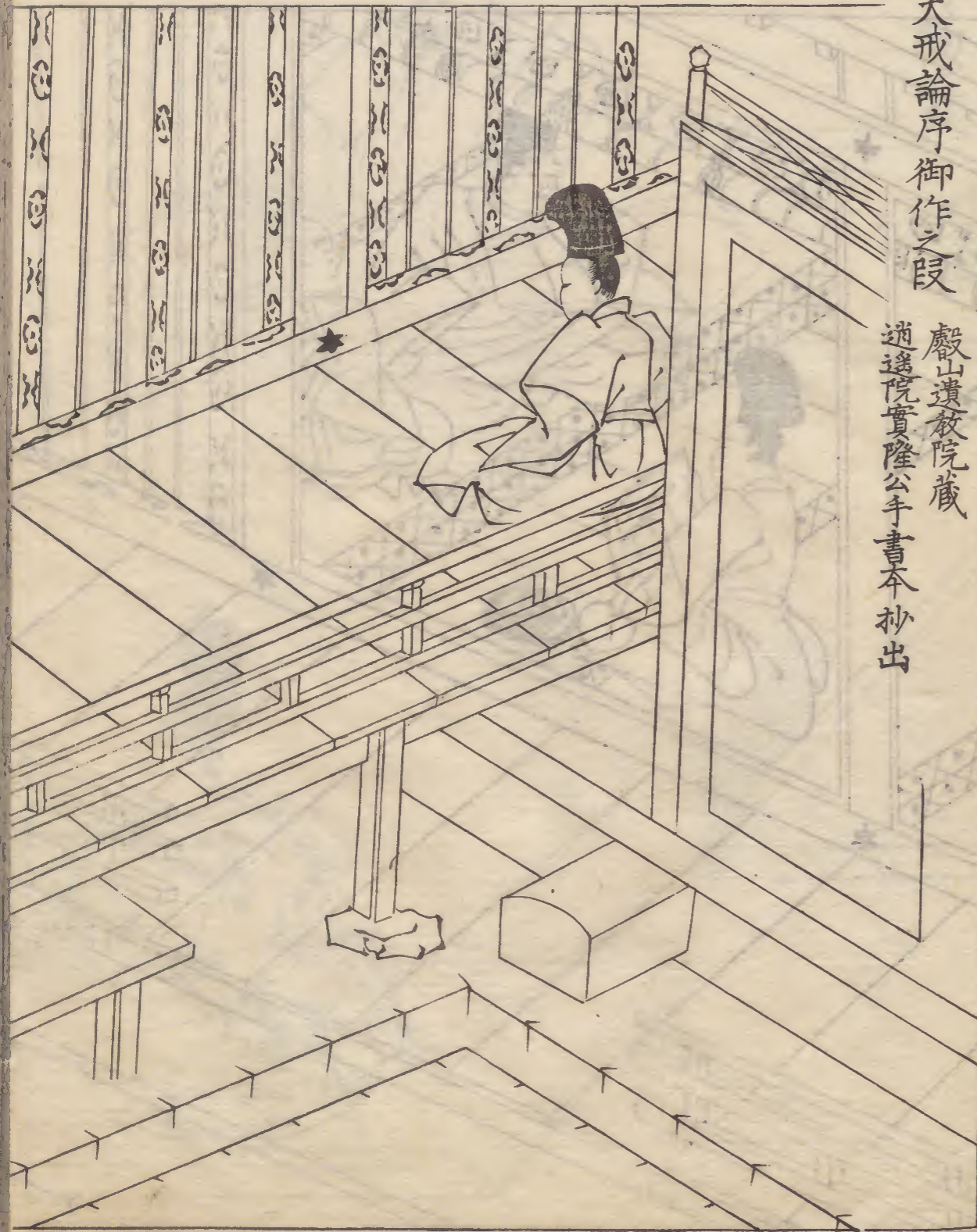
同  
光琳筆扇面屏風圖中  
所模真寫 汪森某藏



一五十一  
一右  
二六右

大戒論序御作之段

巖山遺教院藏  
通達院實隆公手書本抄出



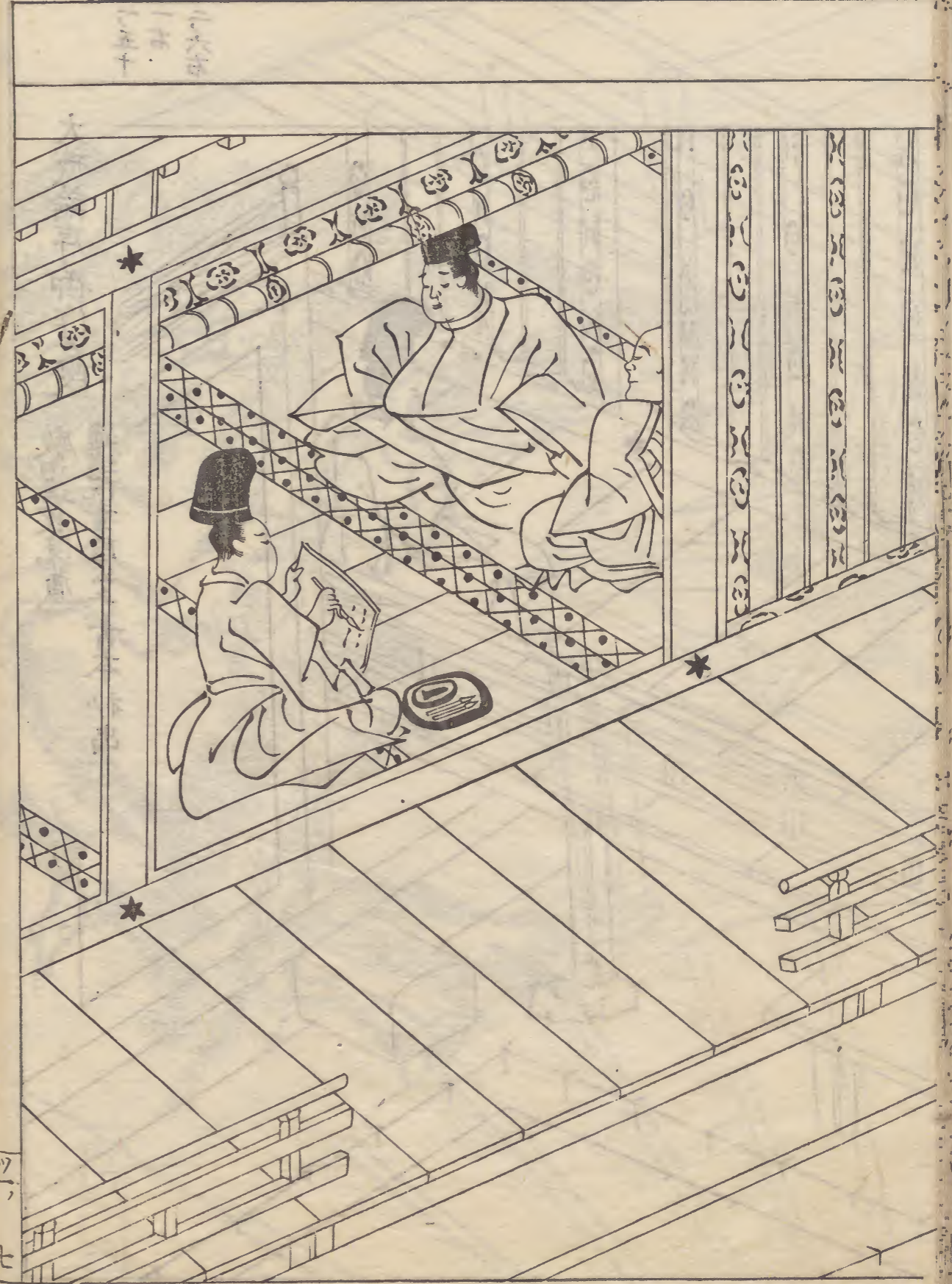
ツノ六



右  
三十八

弓場之段

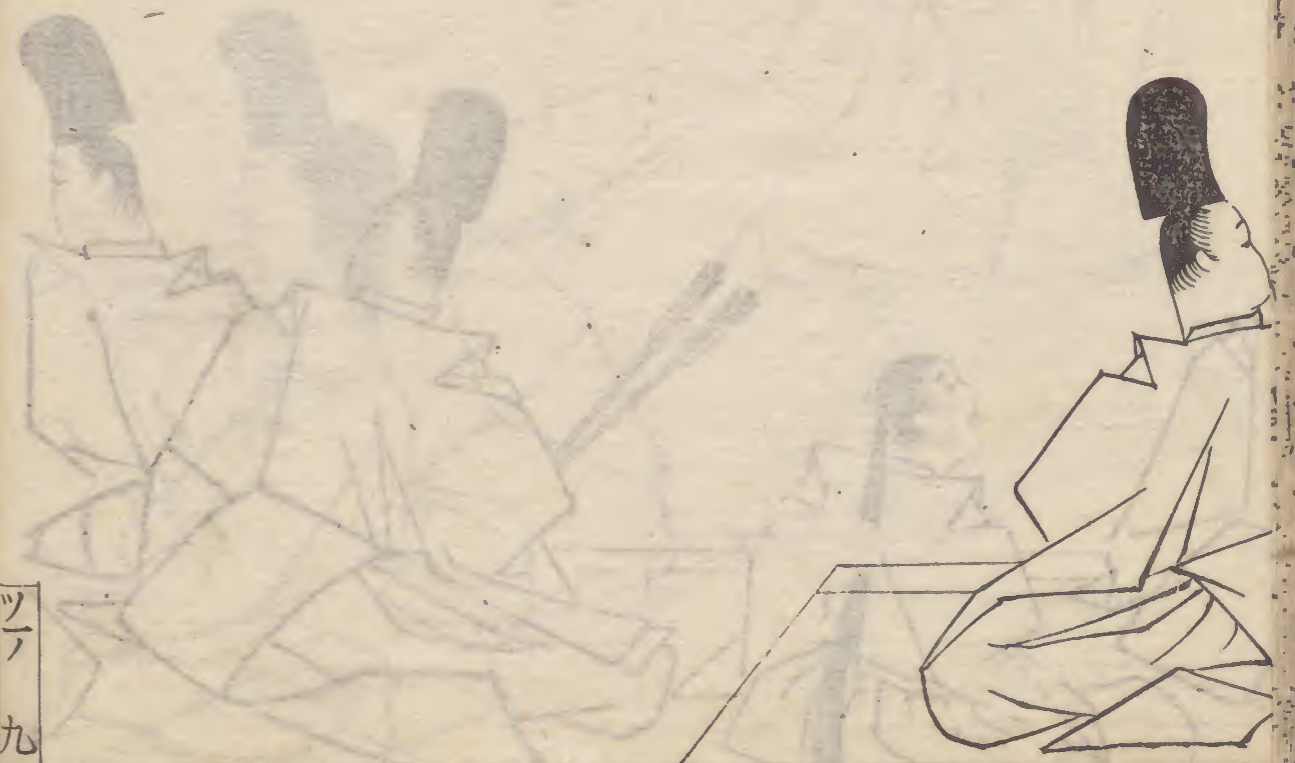
行光本







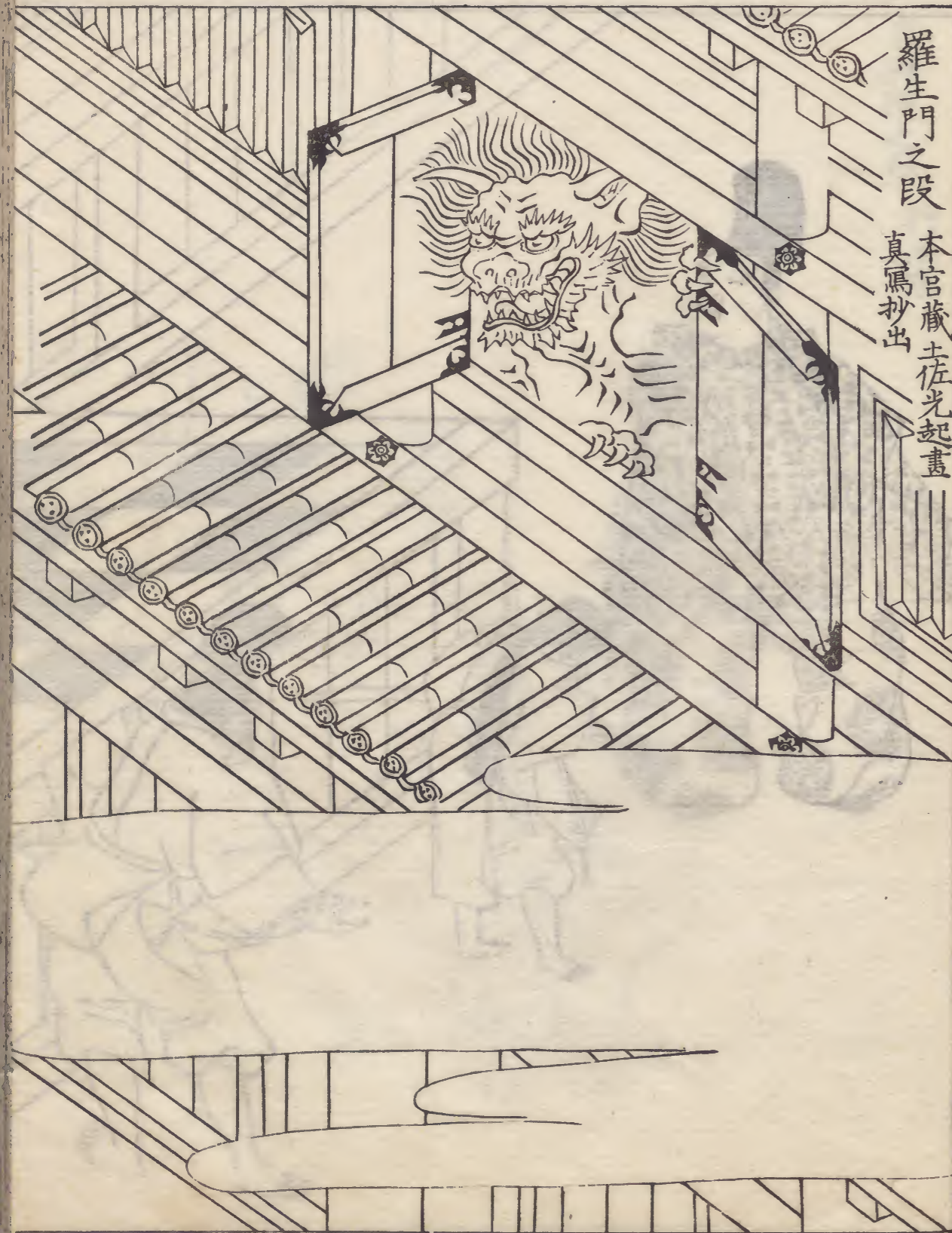
ツア  
九



二并右

羅生門之段

本宮藏土佐光起畫  
真寫抄出



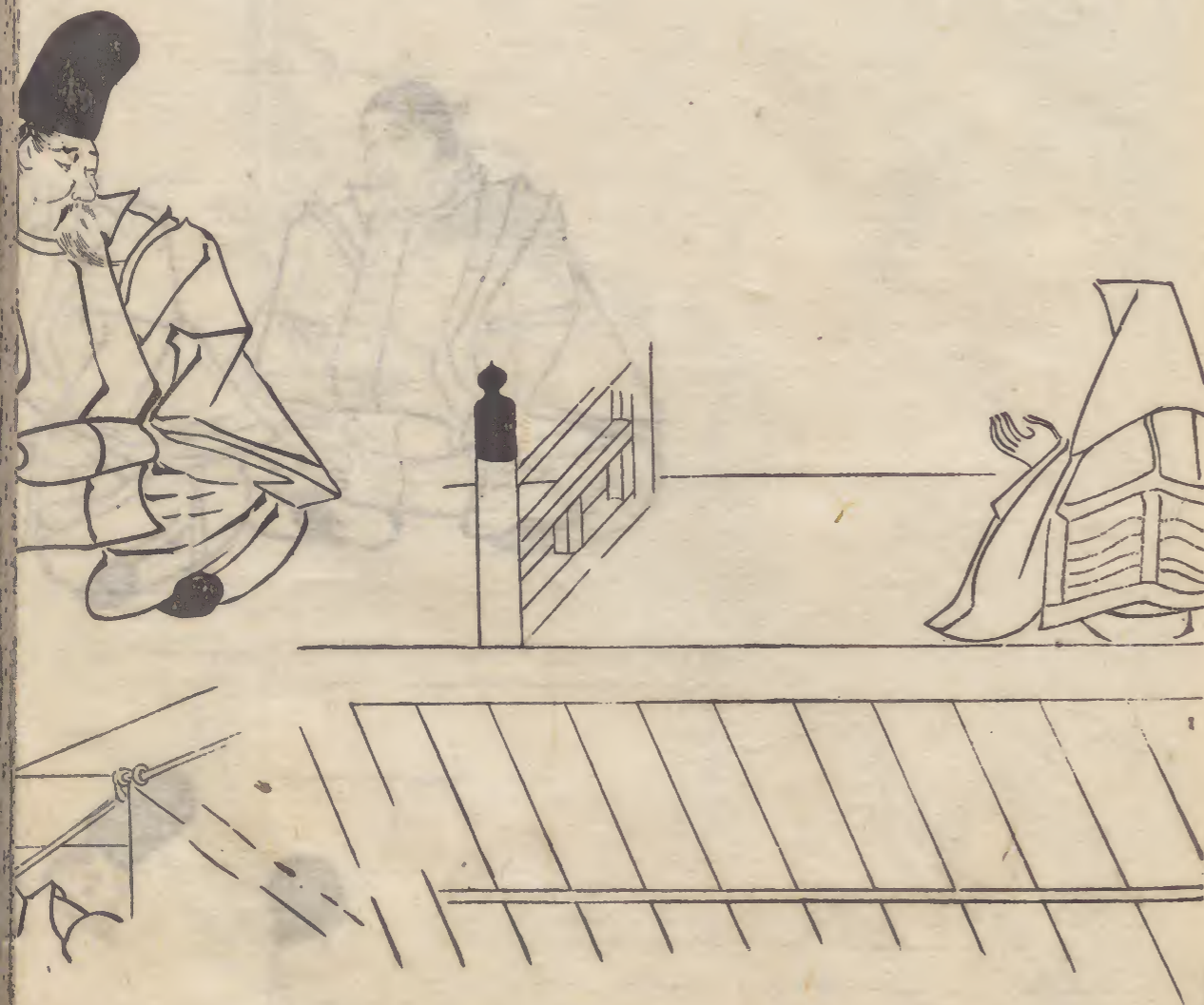
ツノ  
十



四五十九  
右

吉祥院之段  
行光本



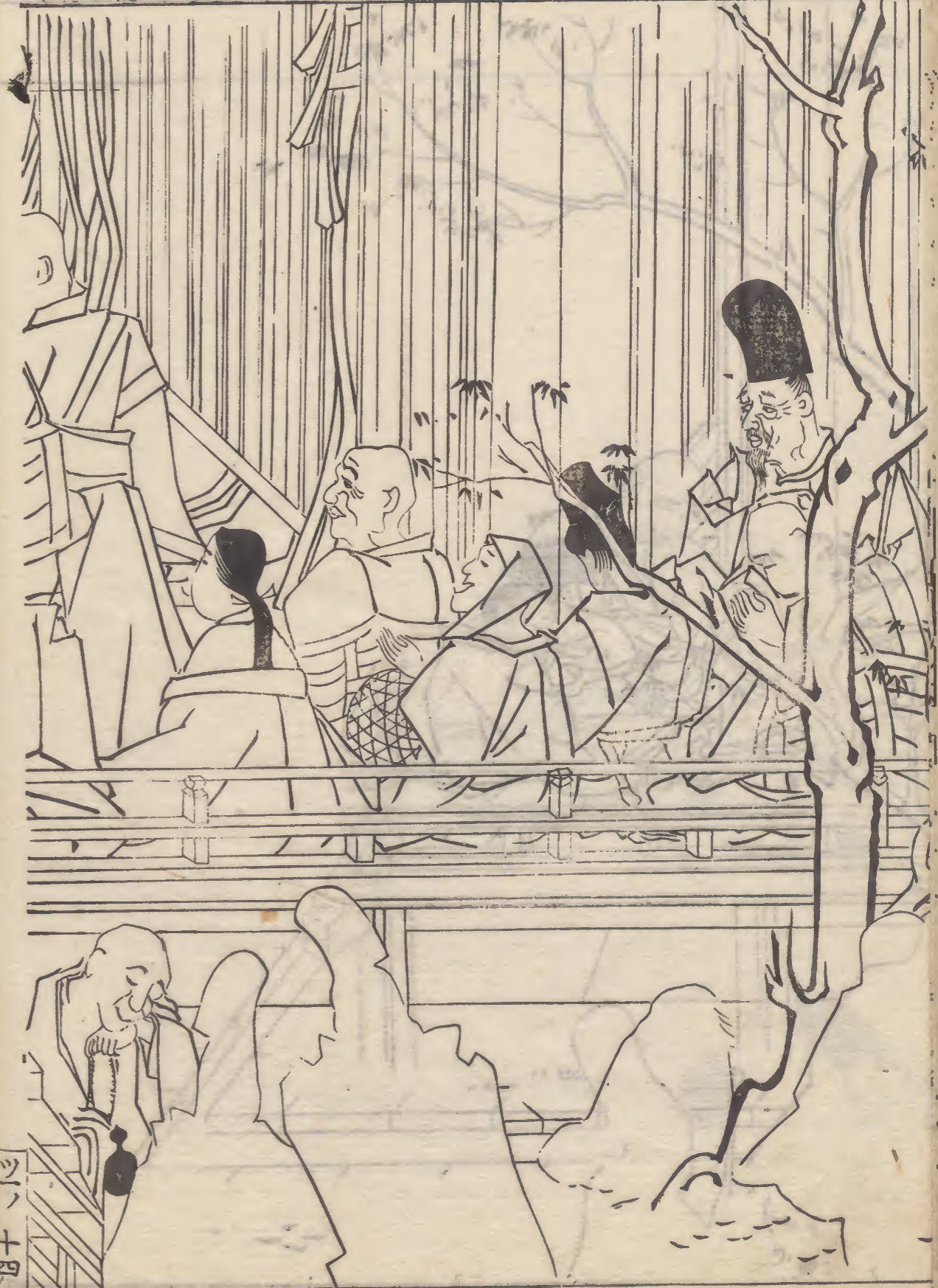


大正  
四年十

上林野之廻  
口本





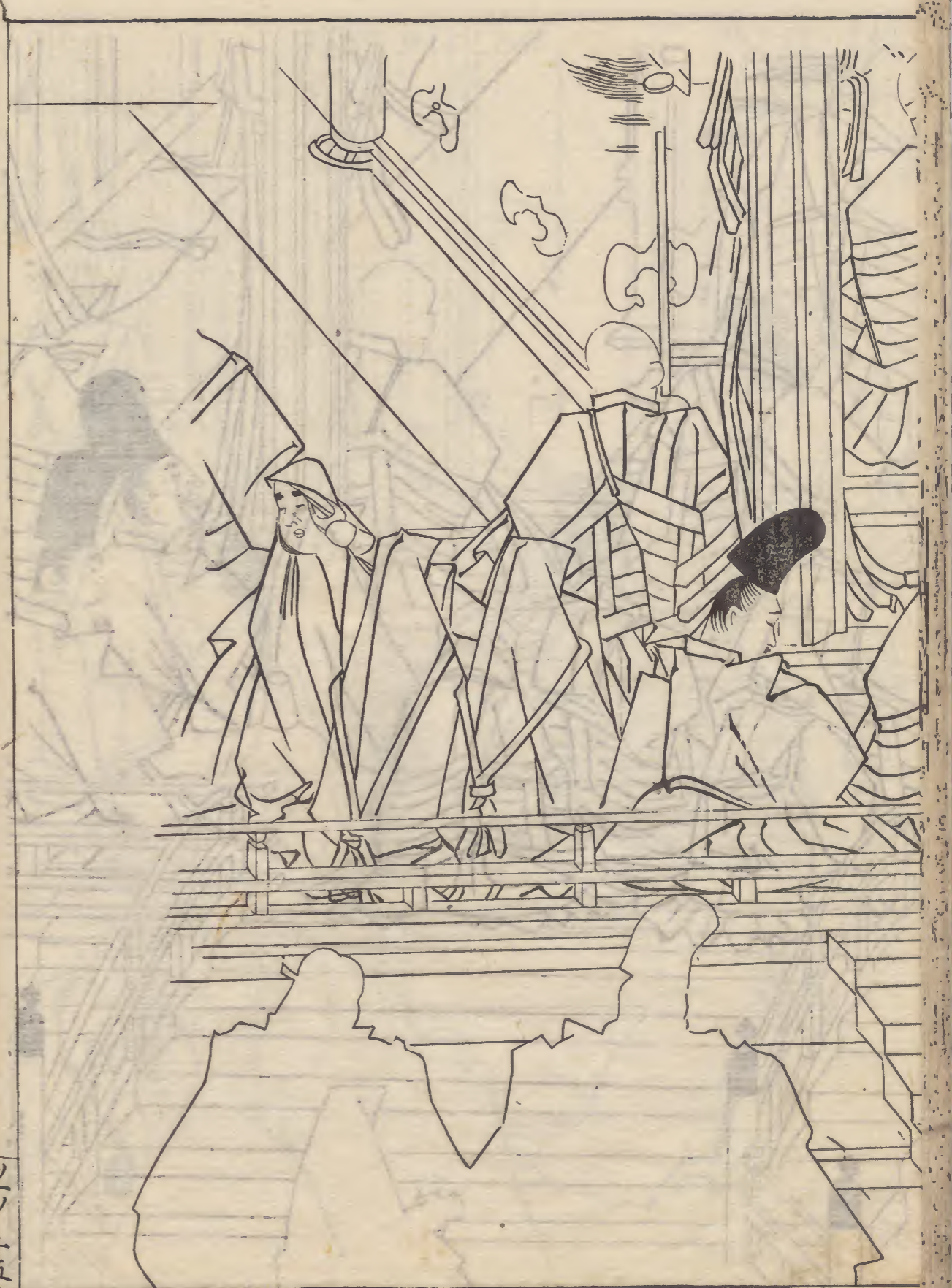
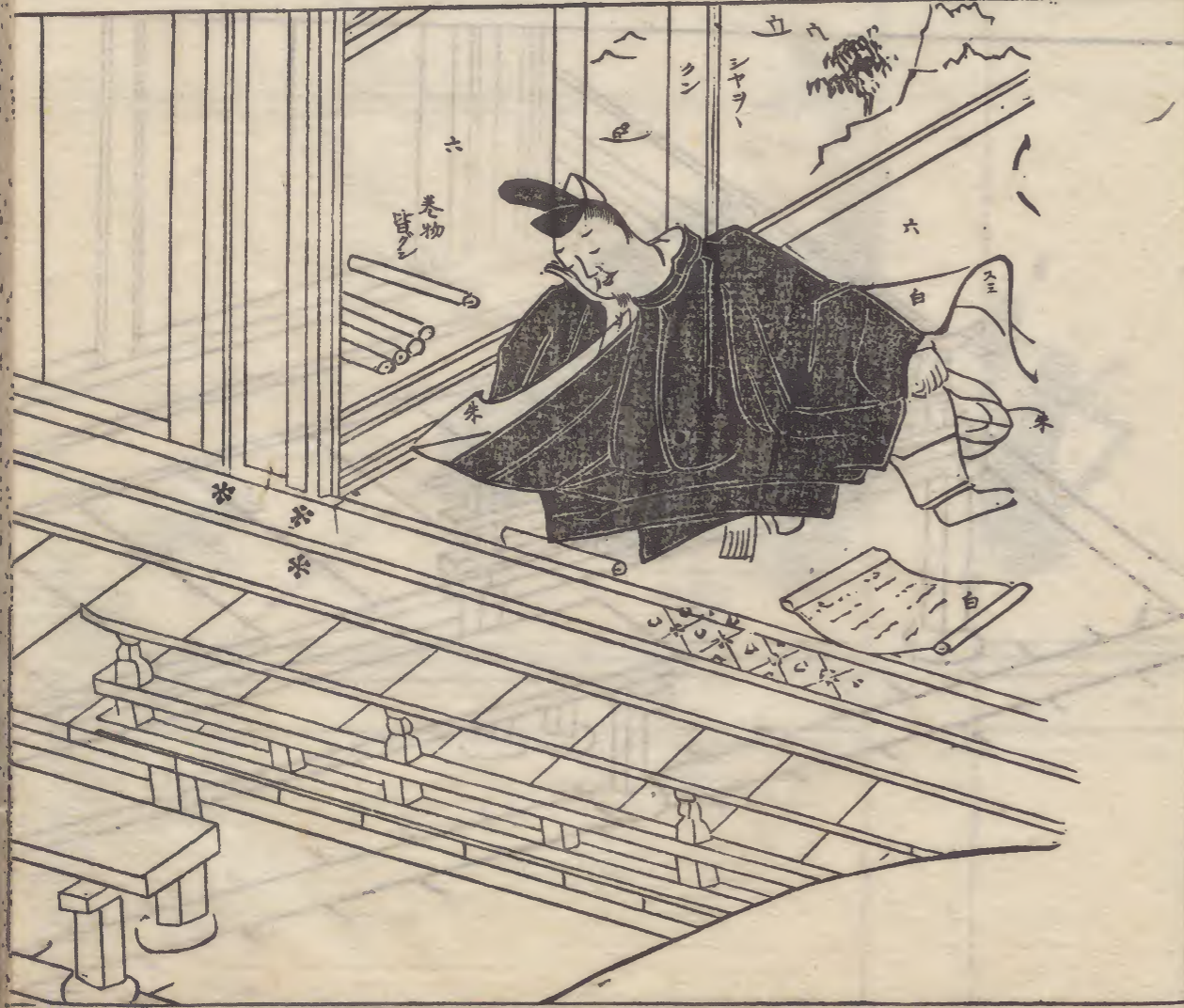


シハ十四



長谷假名緣起本

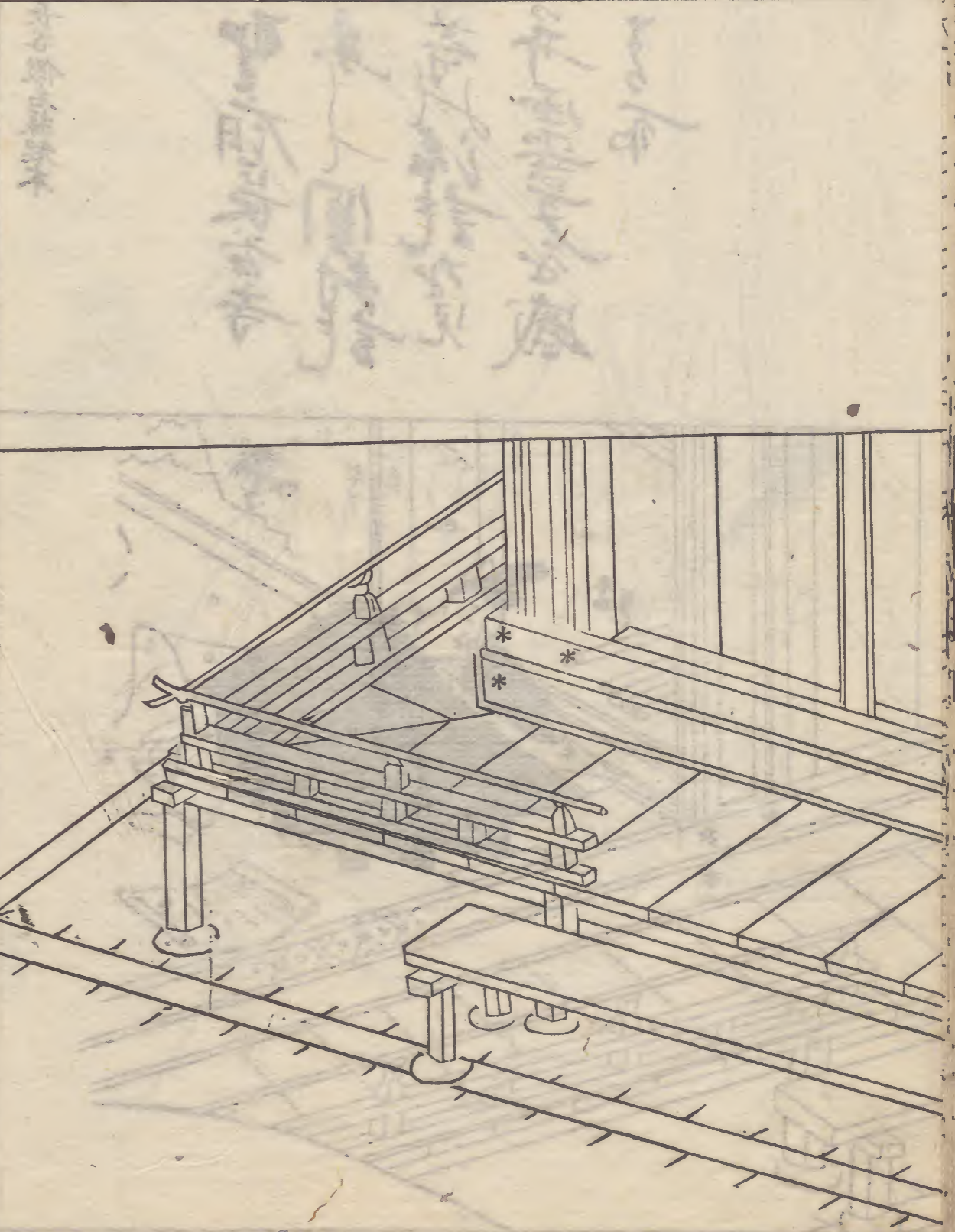
聖廟長谷寺  
素一圓對記  
奇此法記を見  
并雲夢を感  
有る

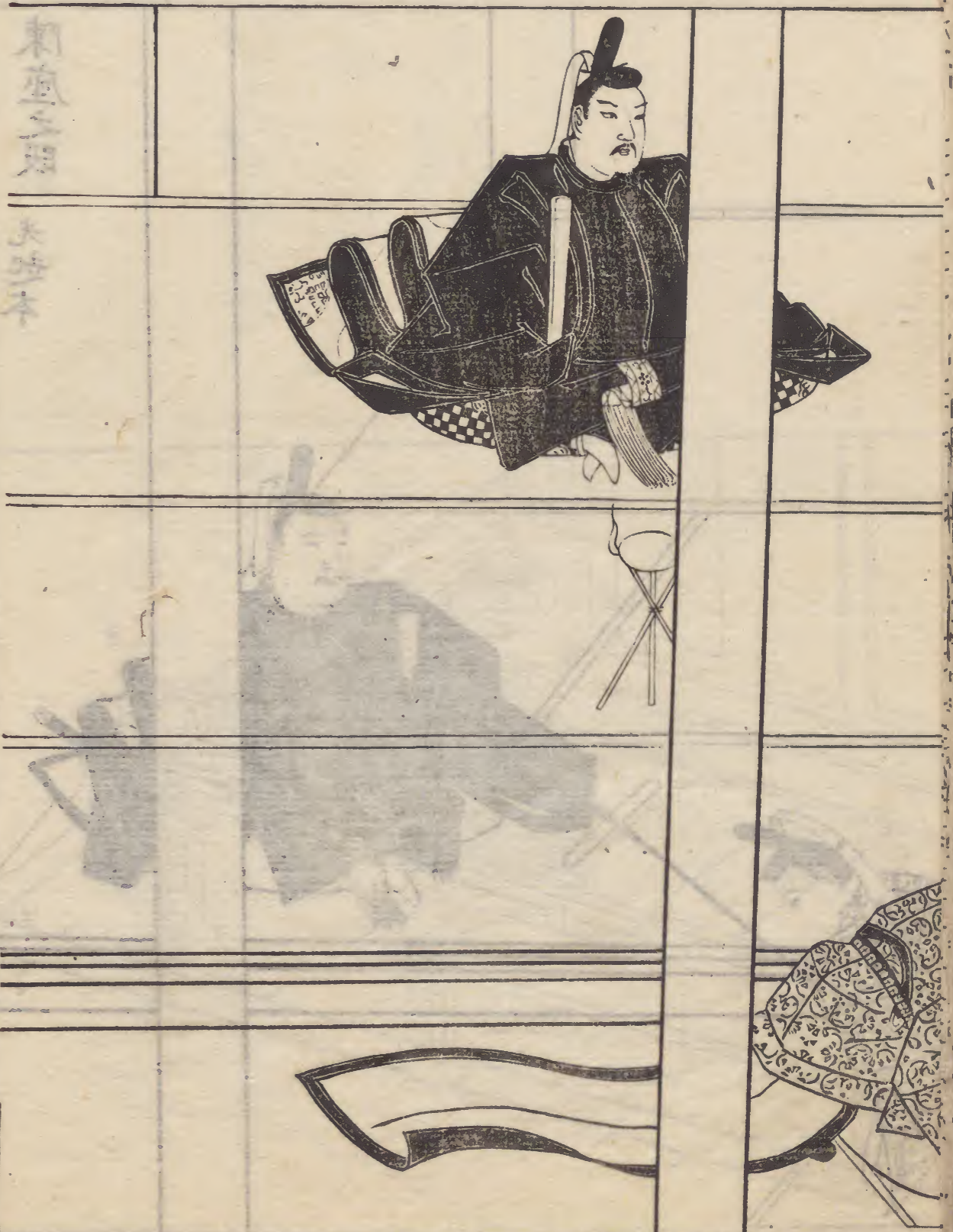
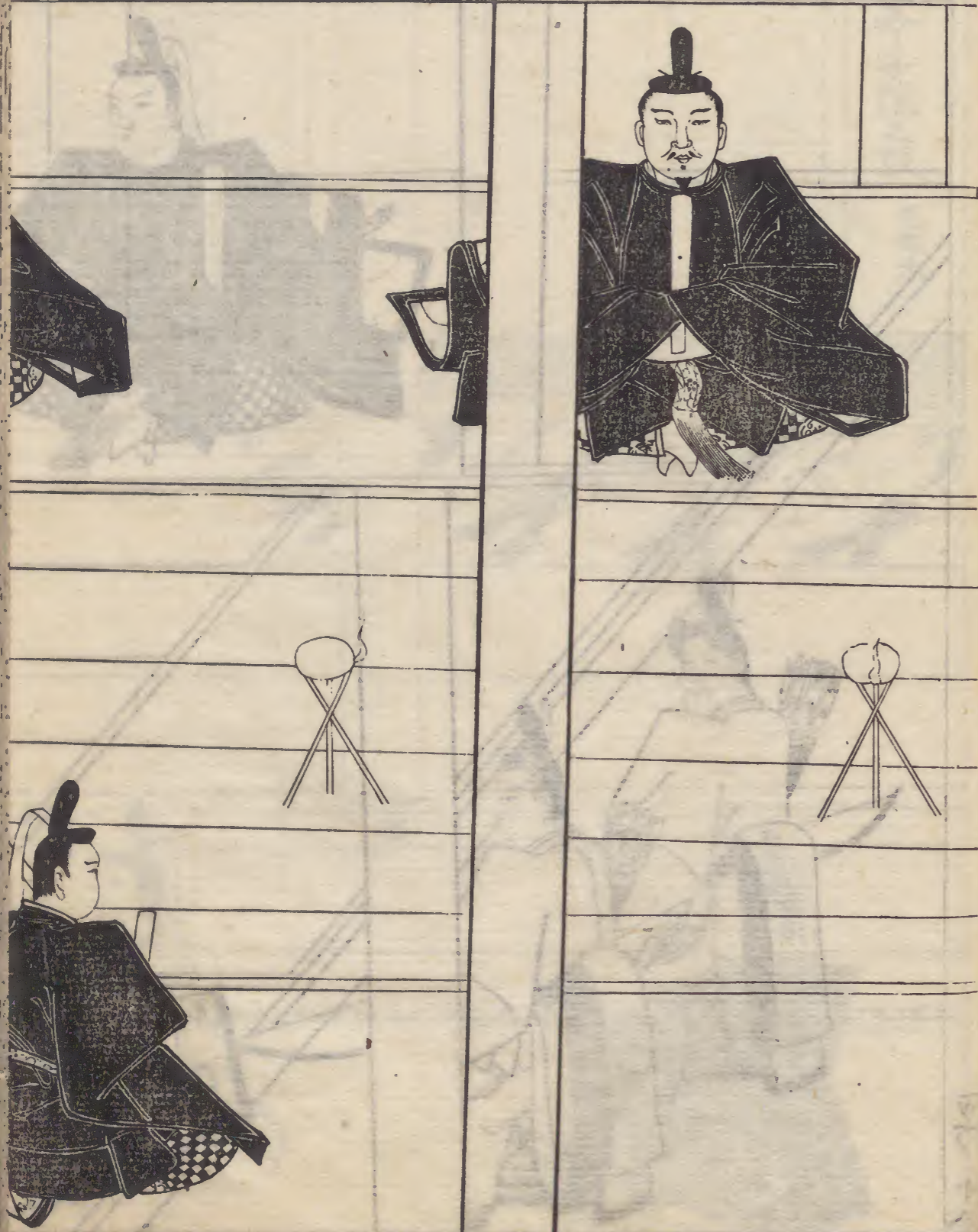


五ノ四  
九右

陳座之段

光起本





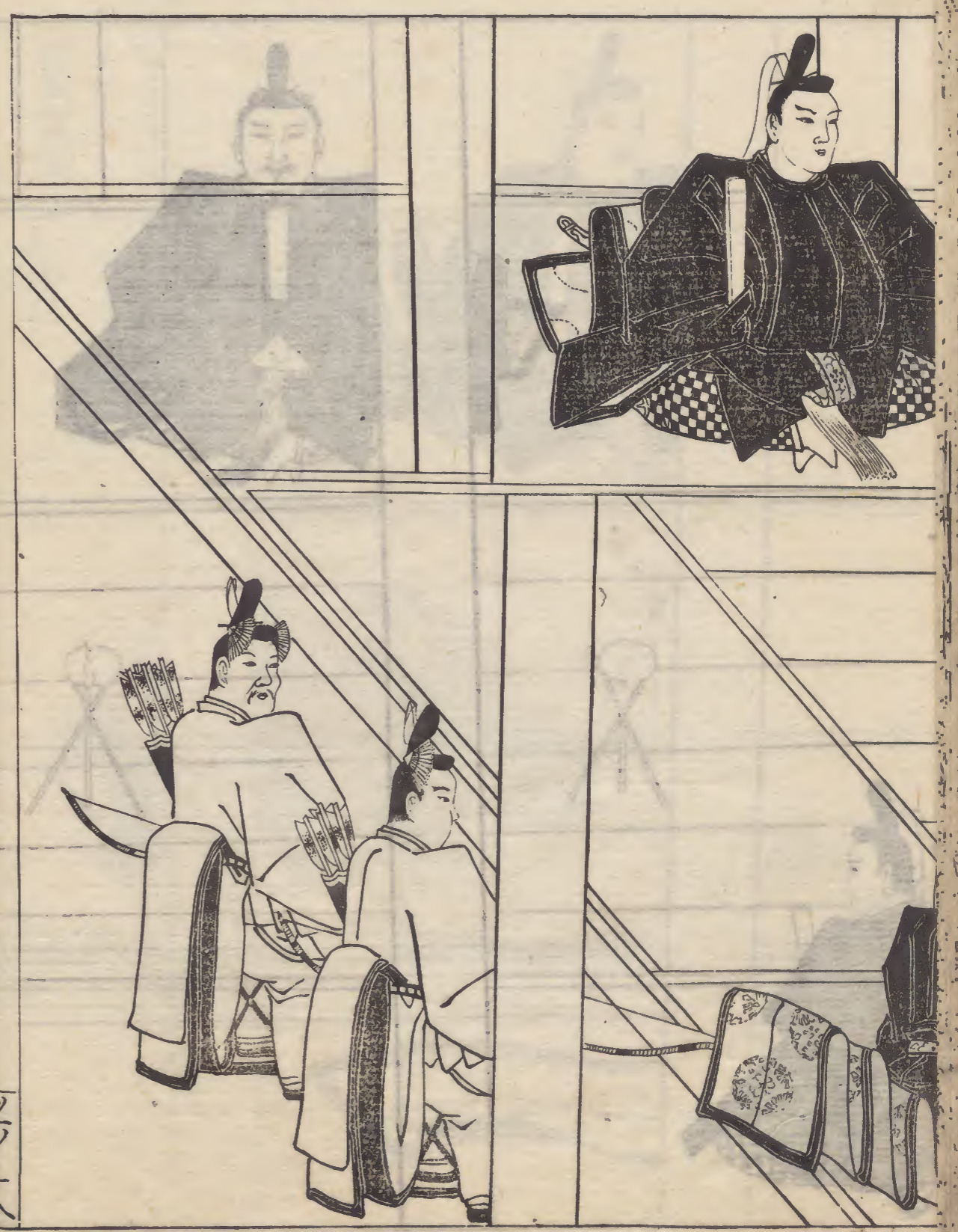
刺風之頭

大政

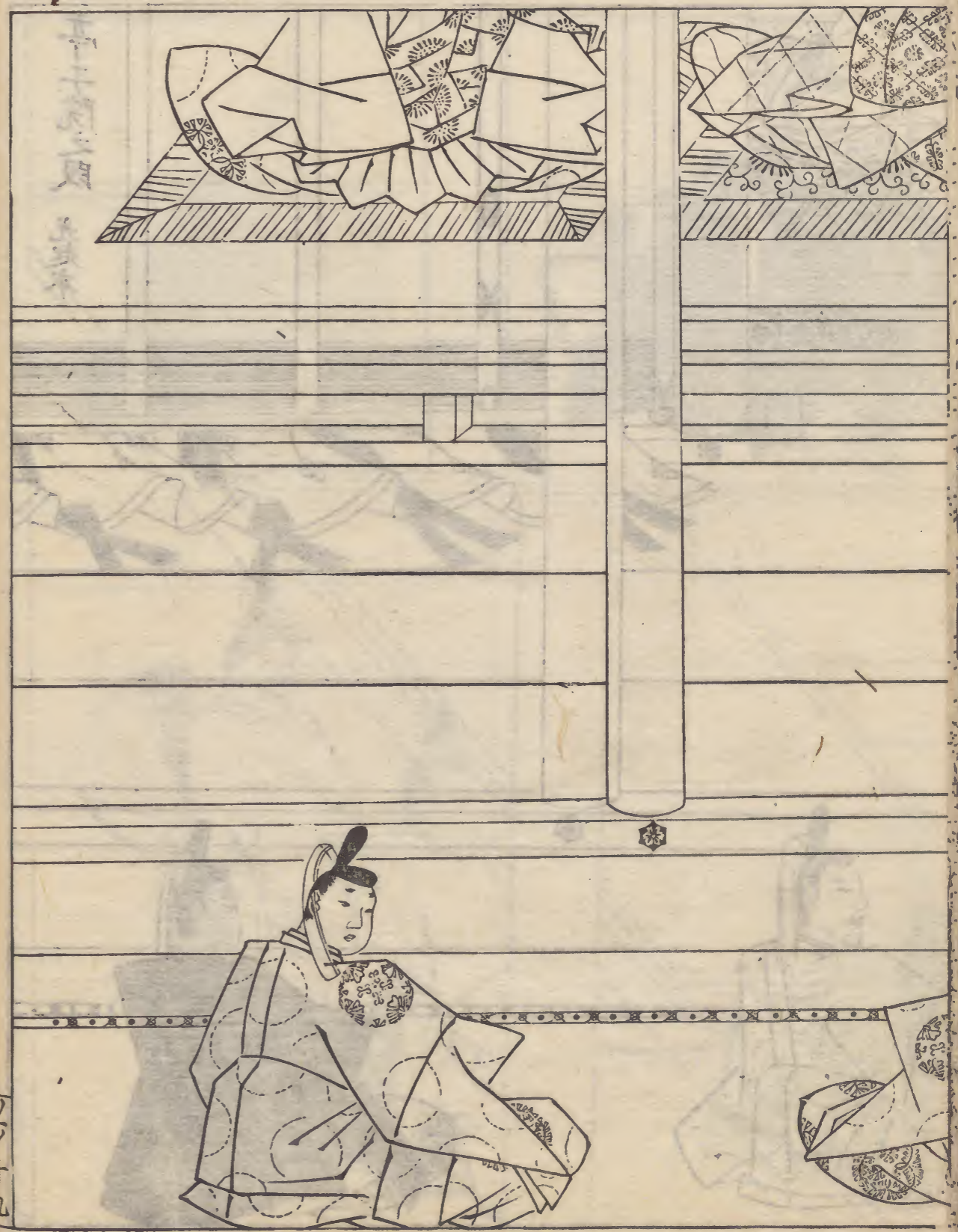
ツノ十七



亭子院之段  
光起本



ツノ十八



右六初

三代集被獻之段

松梅院藏 土佐光信畫  
真偽抄出

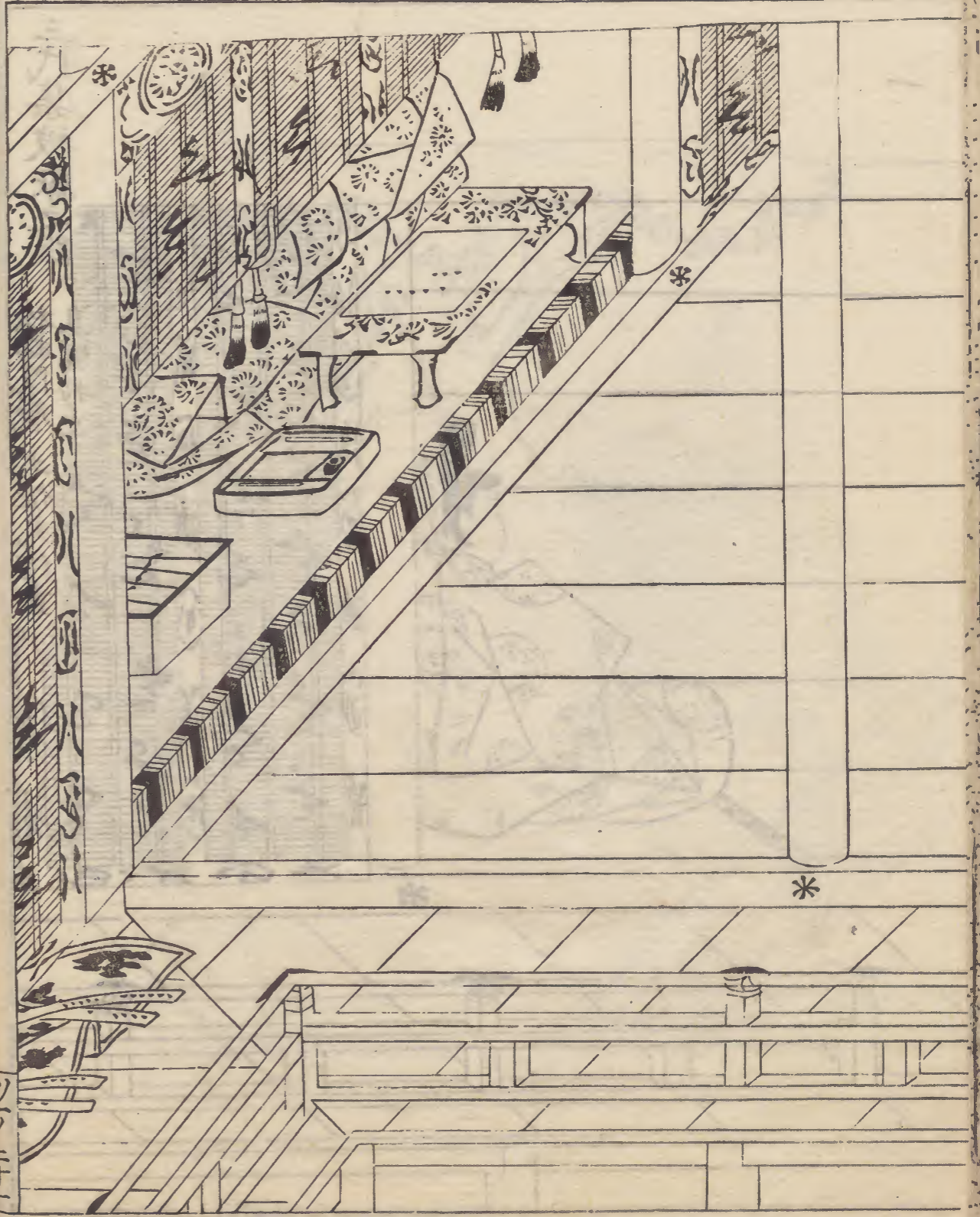




六十  
八左

大庭榎木之段

建部某藏 土佐光正畫  
真寫抄出







光正本詞頭阿法師筆真寫抄出

其後執宣のまへに男女の御子息は

三人の中へ男子一人の御子息は

おとこ一人の御子息は

おとこ一人の御子息は

おとこ一人の御子息は

おとこ一人の御子息は

おとこ一人の御子息は

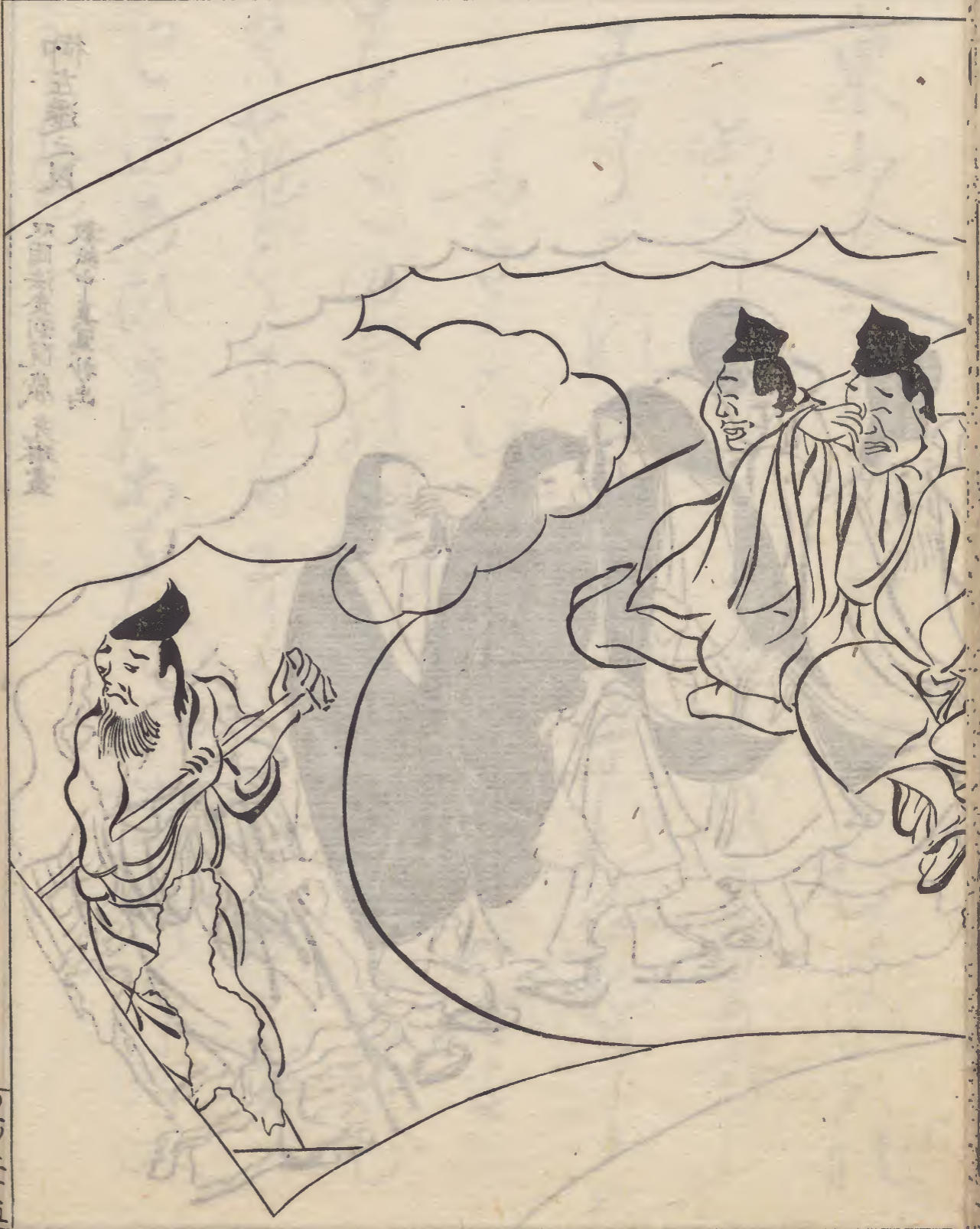




六ノ三  
十八右



去年今夜御詩之段 内々陳奉



去年今夜御詩之段 内々陳奉

右七初

天拜山之段  
學堂藏本  
抄出



御葬送之段  
菅家本抄出



同詞  
 ちのおんささ城なり  
 二月廿五日のよれは  
 のけろもさしけり  
 今此大宰府の  
 六十余所乃ん









ツノ三十一

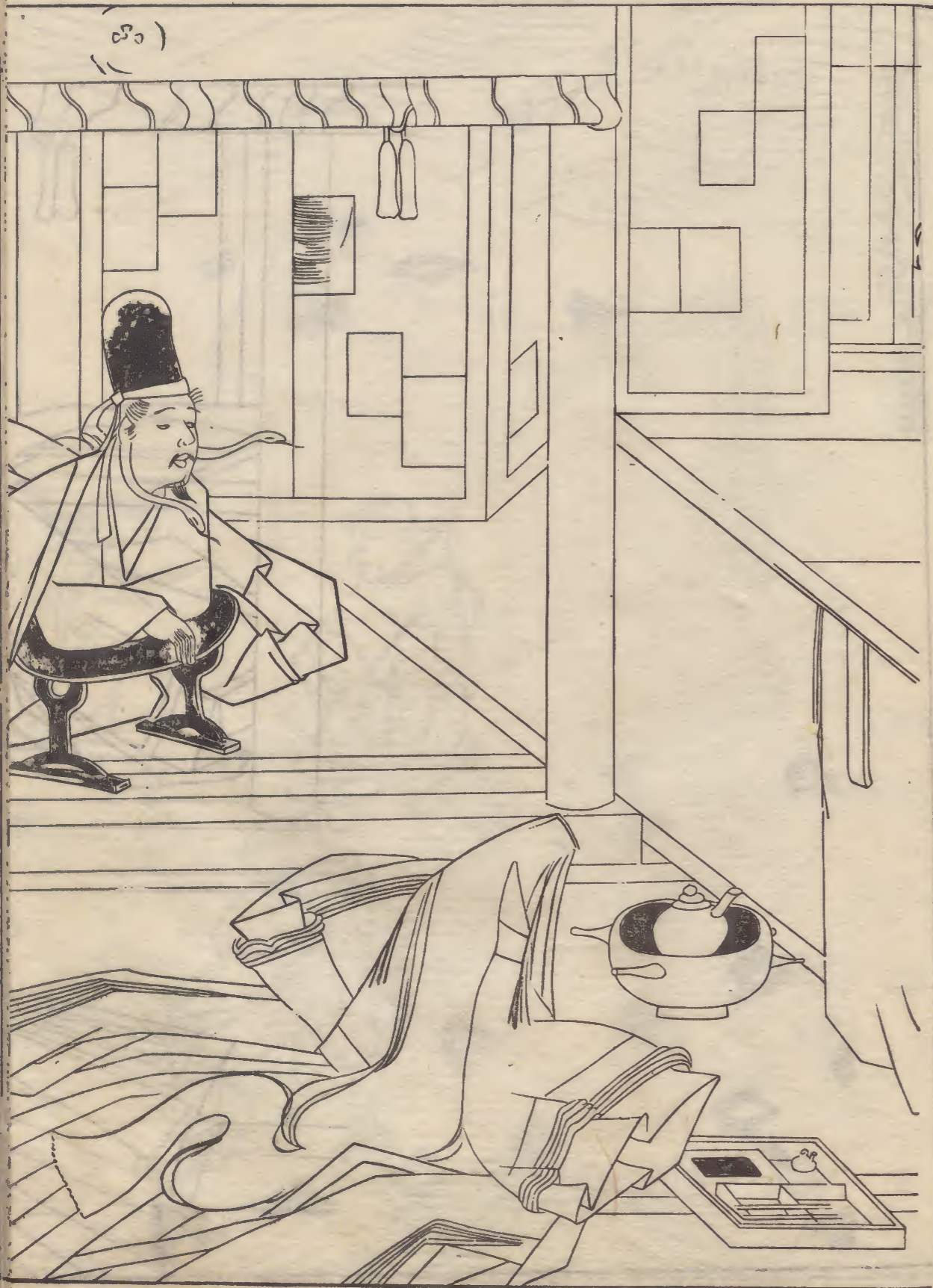




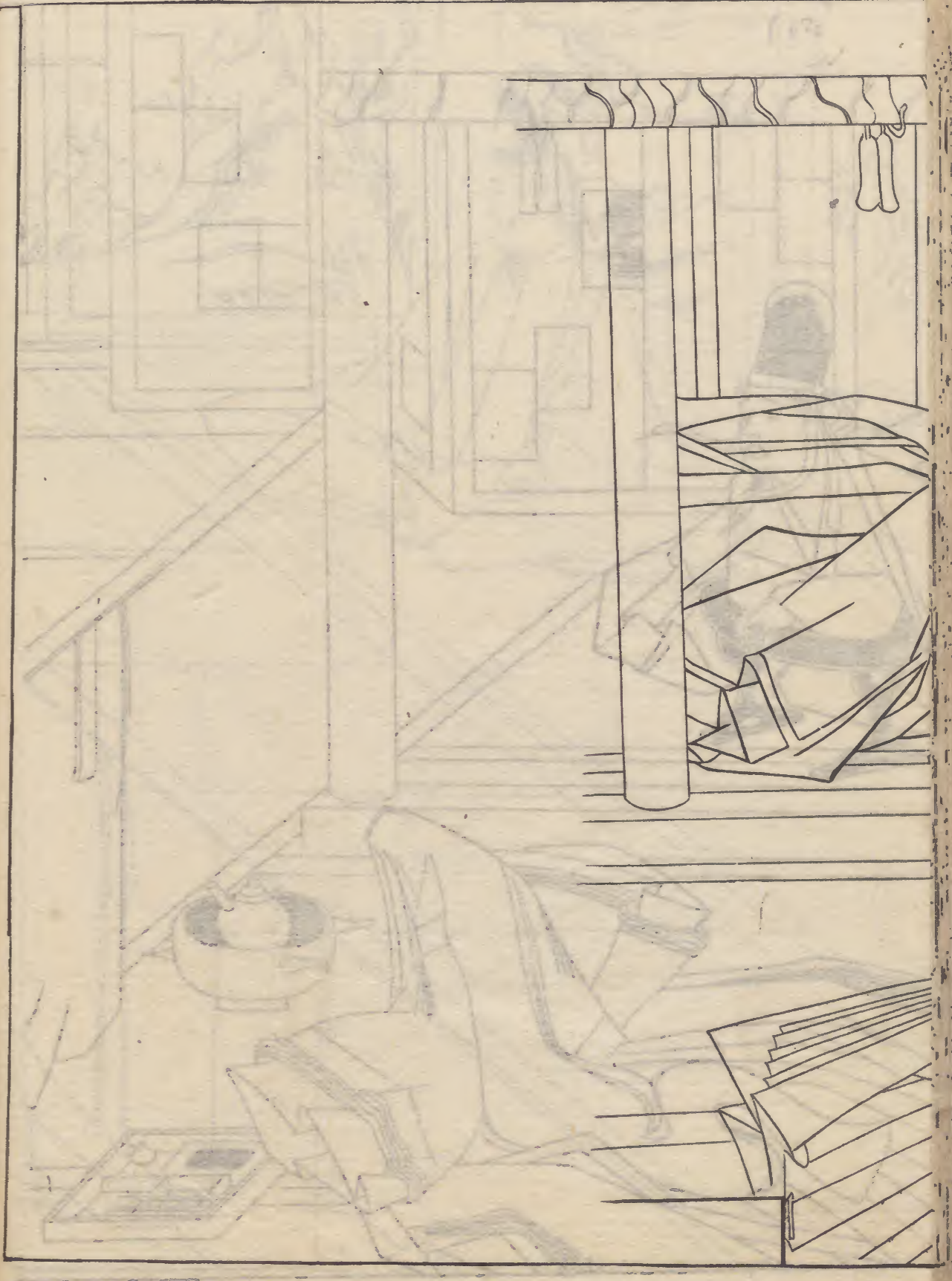
時平公覺去之段  
行光本

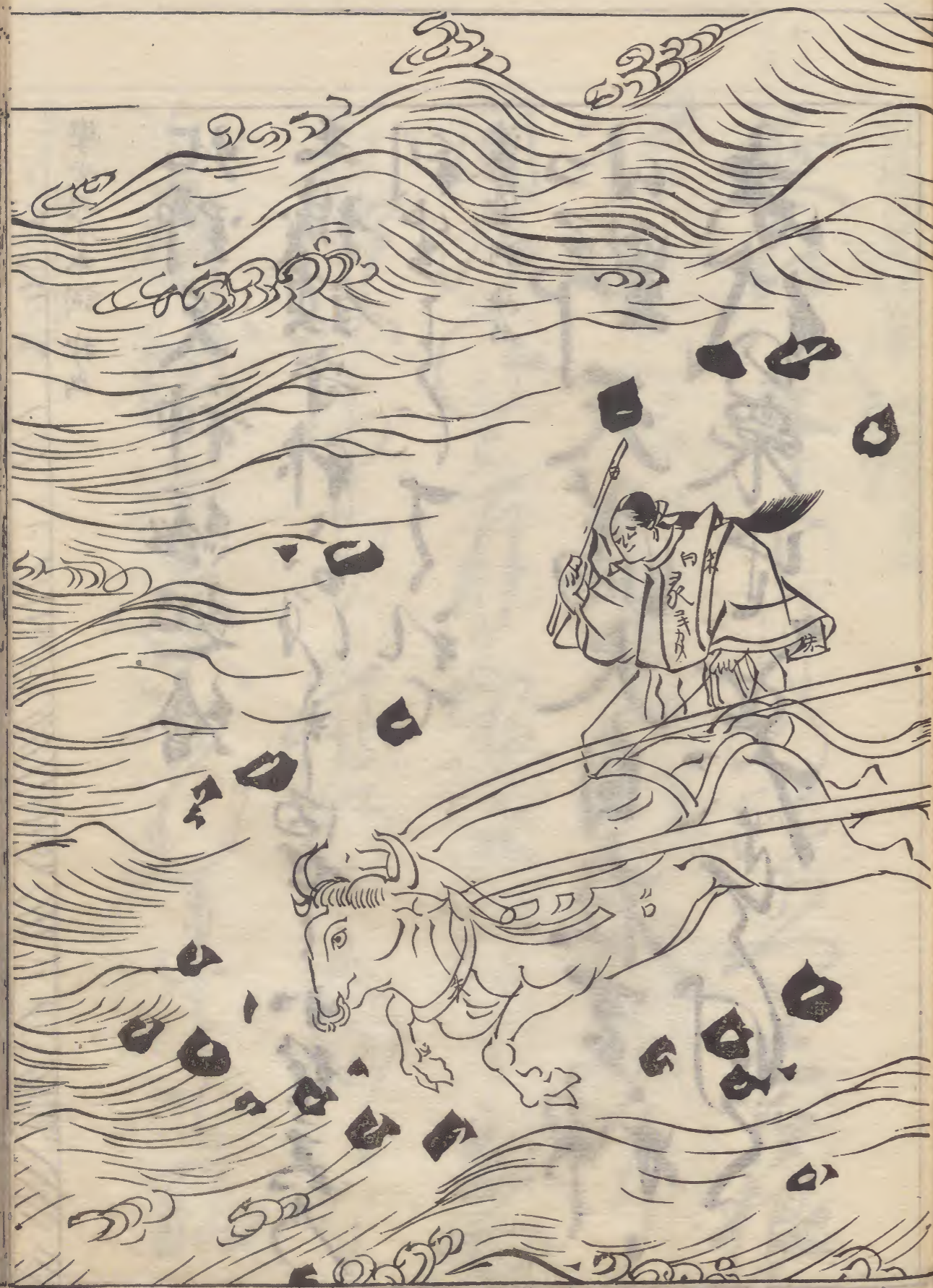


ツフ三十二



賀茂川洪水之段  
菅家蔵本





學堂冊子本詞抄出

北野天神縁起繪

王城鎮守神のほき内せし小聖なる  
利生しとてすれ

法樂院本詞抄出

小野天満大自在天神  
未代の衆けとたたりけり

逍遙院實隆公筆

松梅院本草稿  
真寫抄出

七ノ升  
二右

延喜八年十月の法也菅根

心あたる小聖ありとたたり

同乃の三月は城乃村とて

とてよしなりとてなり

者城の方薬ありとてなり

なり



神春上（？）なり三時

皇曆戊午卯五元年夏六

月乃去後歲切とおよ（？）

市金也

*(Faint background text)*

ツノ三十八

内陳本之真寫抄出 筆者失名

後一院乃御宇

寛弘元年甲辰十一月

廿一日辛酉始行奉<sub>レ</sub>り

し（？）元元元年己卯

今より（？）なり



十九代以...月白三  
百十六年其間水野天  
神...  
神...  
神...

北野聖廟緣起不慮紛失不知其所在  
空送歲月已久千安目代照世素求于四方  
得古編緣起八袖於泉南大寺之大藏中  
雖然欲償之不容易故謁縣令石田木作平  
清遊鶴望縣令感照世志深切而文祿大檢  
秋遂以得令終素願不勝打躍抱<sub>レ</sub>奉備



寶前也可謂合浦珠去後遂多嗚呼是亦  
非 神靈威德、盛平十時慶長第四曆

己亥夷則七日

小野寺勢

無不集親記之

ツラ四十

七  
六  
右

延喜帝御落飾之段 菅家藏本



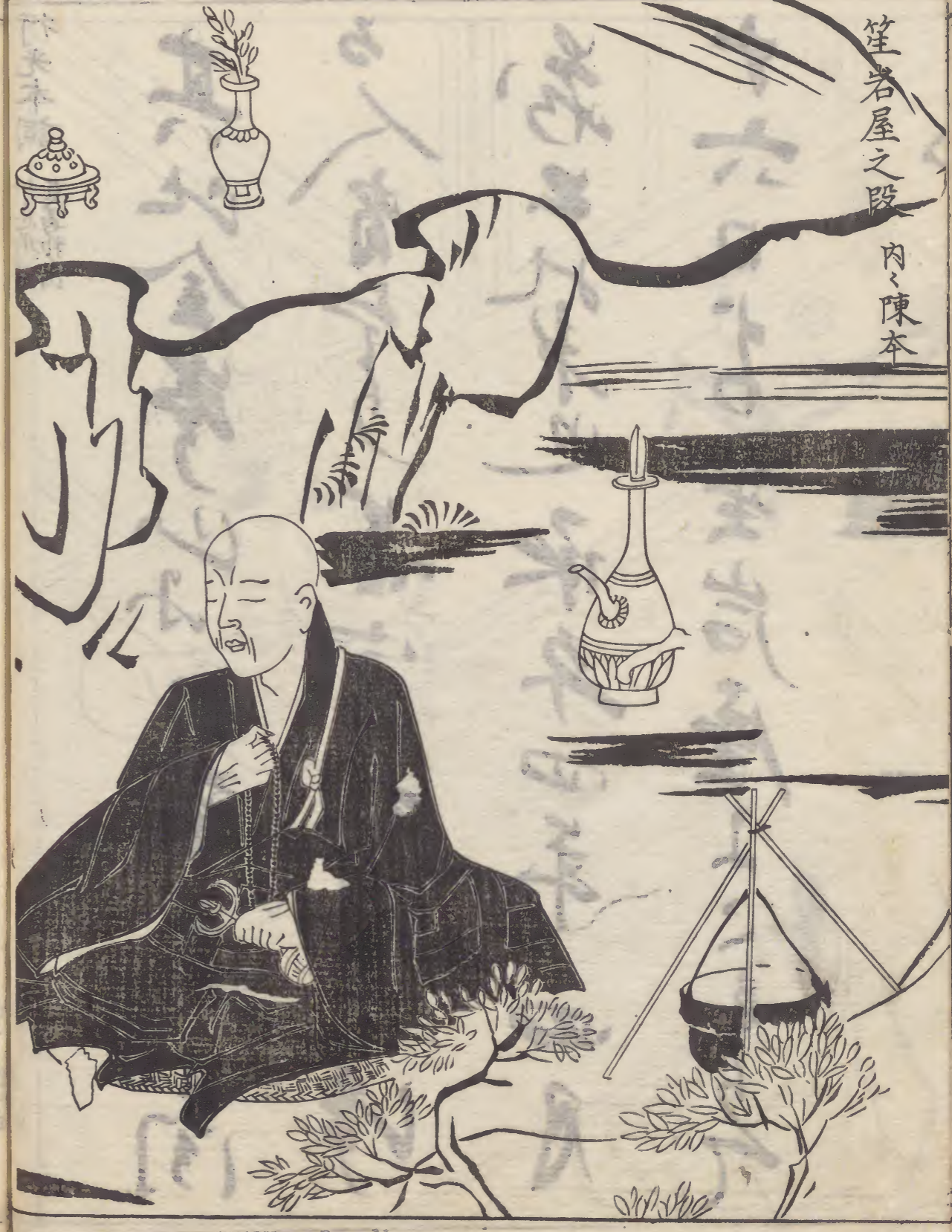
丁八ノ初

行光本詞  
行忠卿筆  
真寫抄出

其此金考山小日截之人之間  
る人省字り善宰相此子淨  
新上此才也承平四年四月  
十六日古筆岩屋上二



笹岩屋之段 内ノ陳本



天神淨土之段  
梅椿坊藏能開詞書之本  
縮寫抄出



狩野家藏



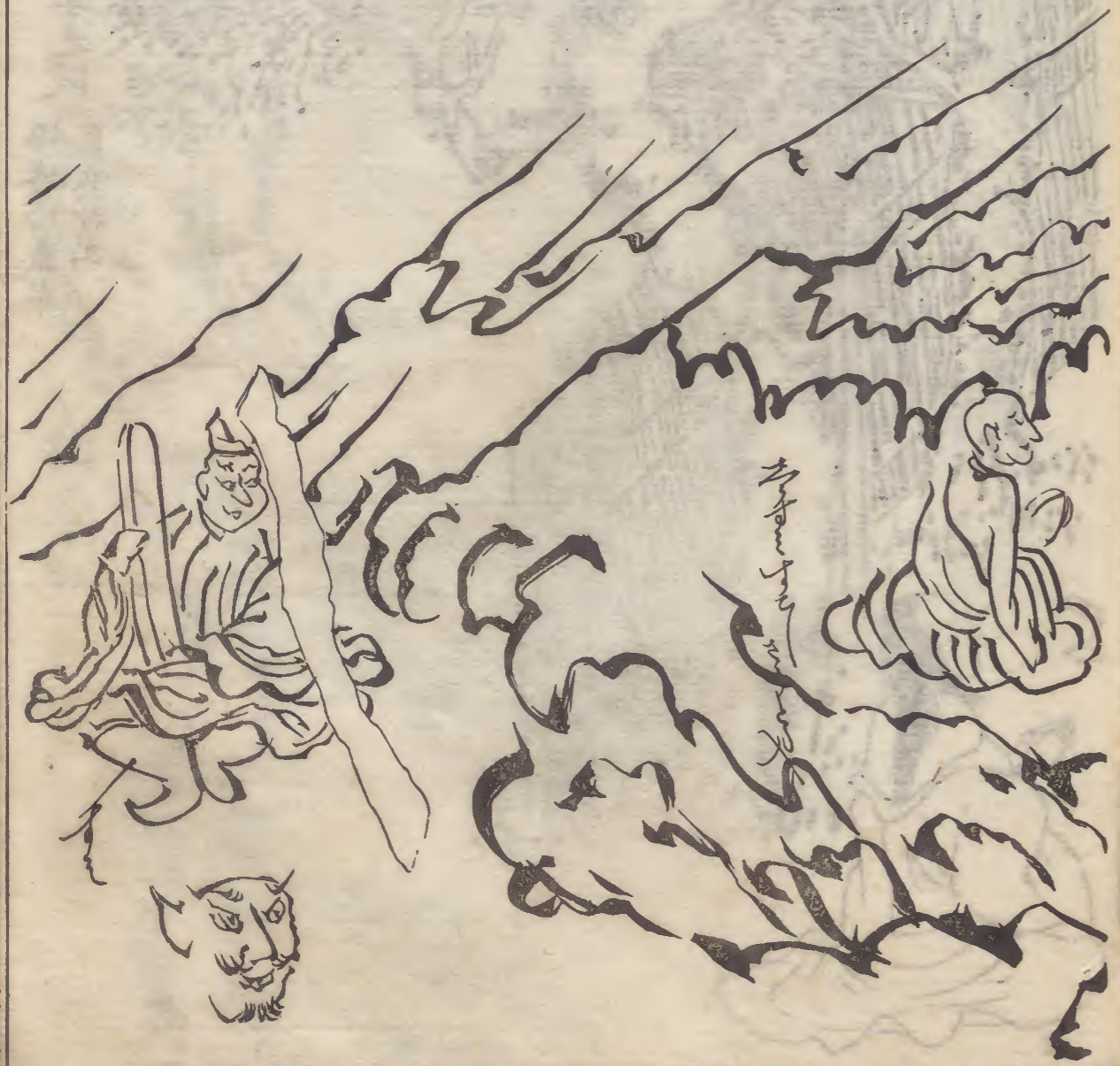
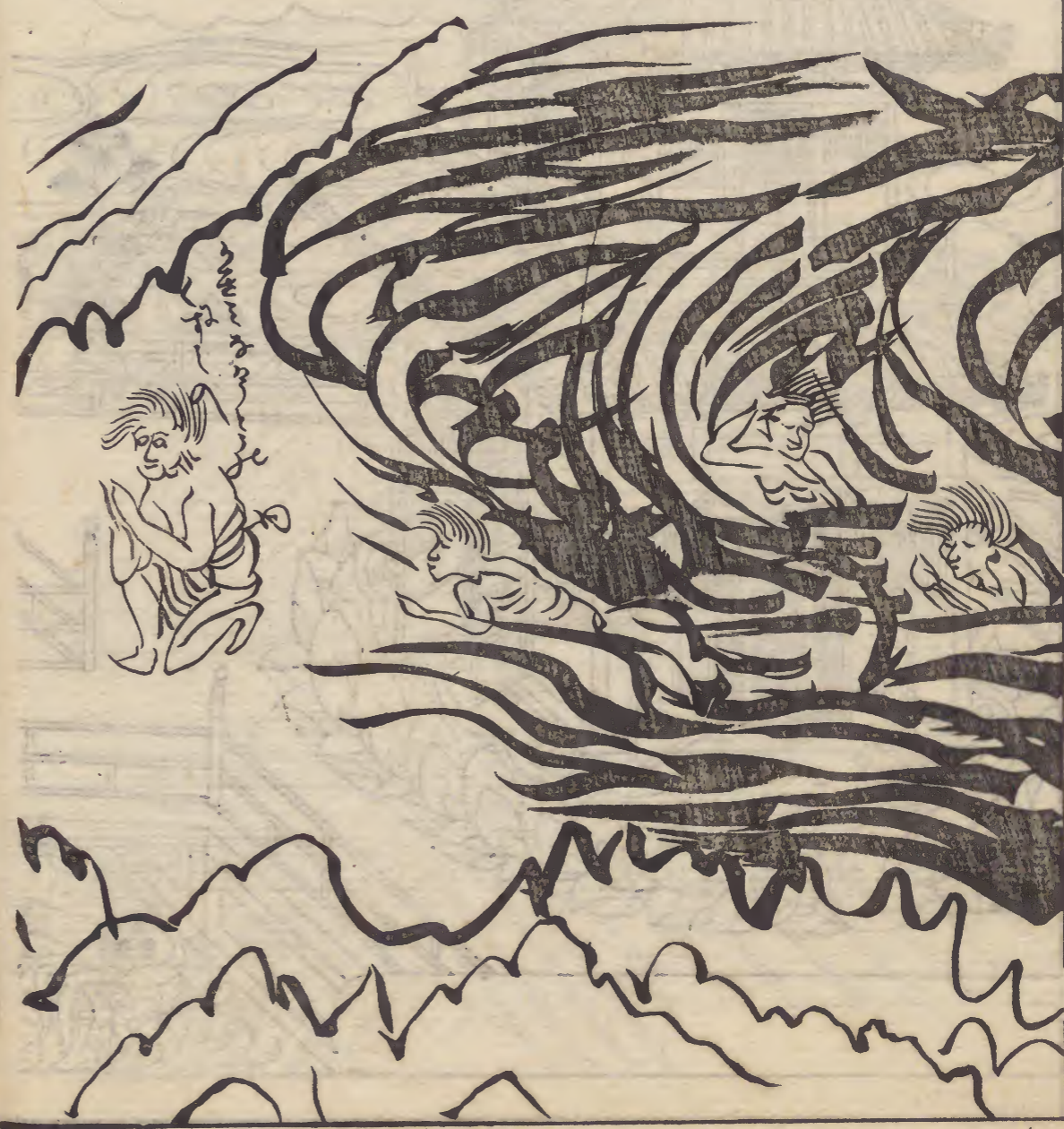
ツフ 四十五

鐘窟苦所之段 山樂童稚之粉本 真寫抄出

くまのり  
まのり

十八

八四左

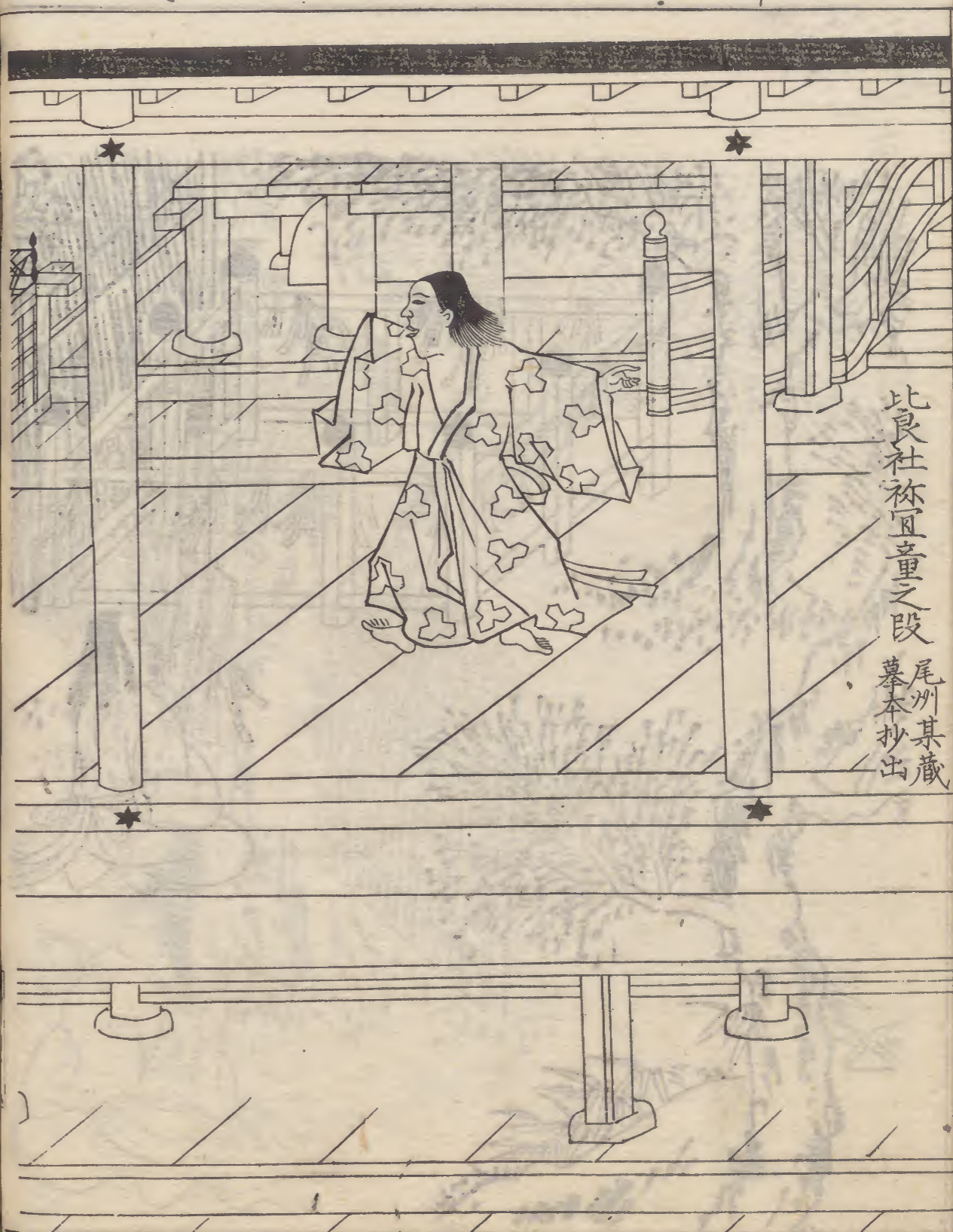




下五十  
左  
八廿  
右



右京七条文子之段  
梅椿坊藏本  
真寫抄出



比良社祢宜童之段  
尾州某藏  
摹本抄出



九  
十  
八  
右

御贈官勅使之段  
尾州某藏本

尾州某藏本詞重寫抄出

大慶五年秋七月十三日酉

七條小あや。しれ下女り

多し其名紙綾子と云。聖

廟に於者小津院宣の奉

あり我在世乃時右近於馬場

小梅のしるる。毎年於れ

上四十

色乃勝地しや。小抄くか

し。而北道に飛紙か。ゆ

うし。と。新うり。鎮府小お

もむ。と。之とも。竊よ。は。ゆ。よ

行。て。梅。時。のみ。そ。ん。り。か。の

紙。も。こ。り。し。ゆ。ん。ち。ら。る

尾州某藏本詞重寫抄出

松梅院藏本與書 道遥院實隆公筆 縮寫

聖廟緣起 上中下三卷 繪畫所預從四位下行

刑部大輔藤原朝光信面之詞正二位行

權大納言兼侍從藤原朝實隆依松梅院

梅秀丸命書之所謂舊本紛失之間抽

懇丹之玉依施後素之新樣之今

穀賢之次忝揮宸筆銘于外題蓋

五十一

萬代之至寶應

靈神之照臨志乎一時文龜登交曆二月

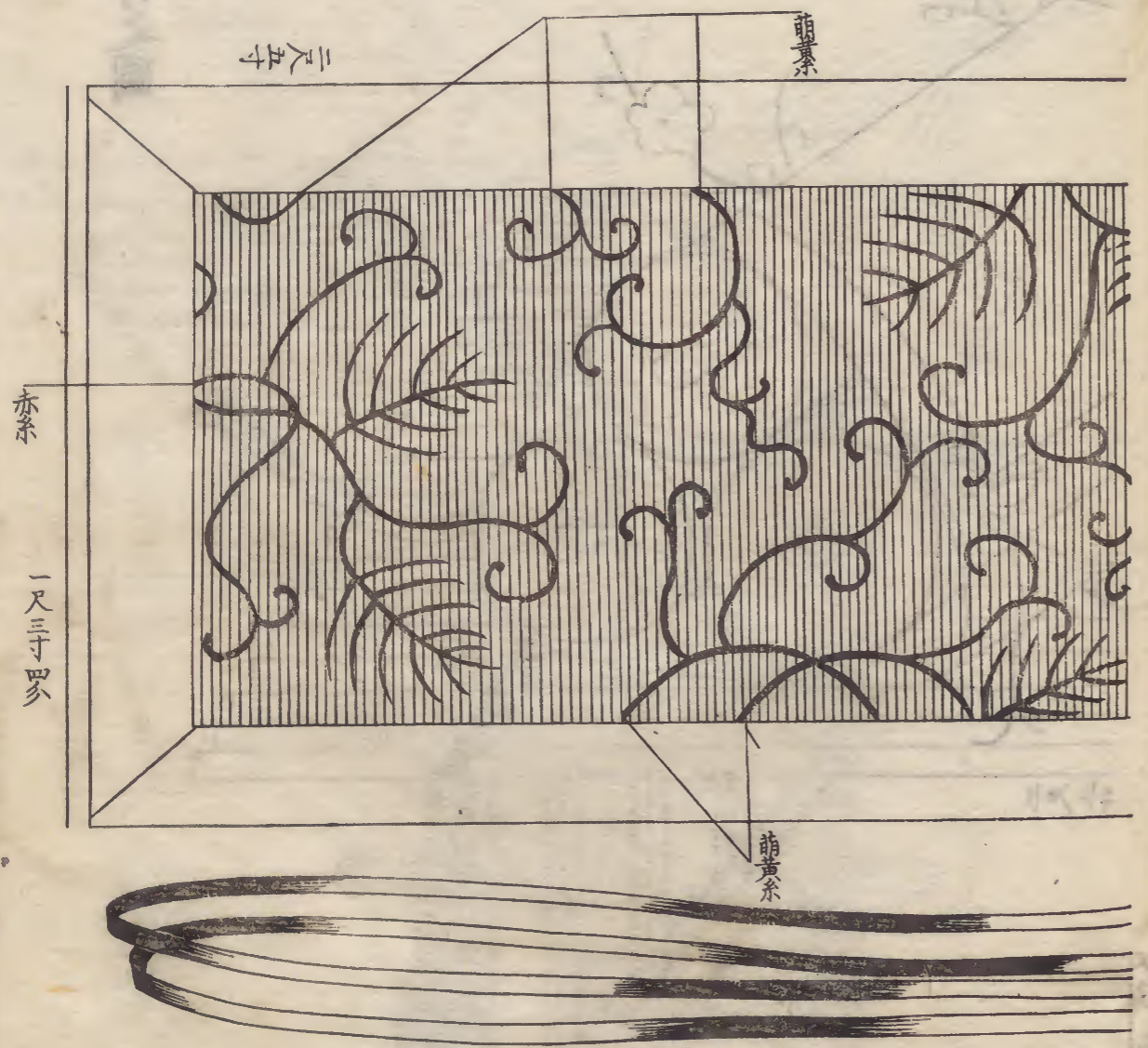
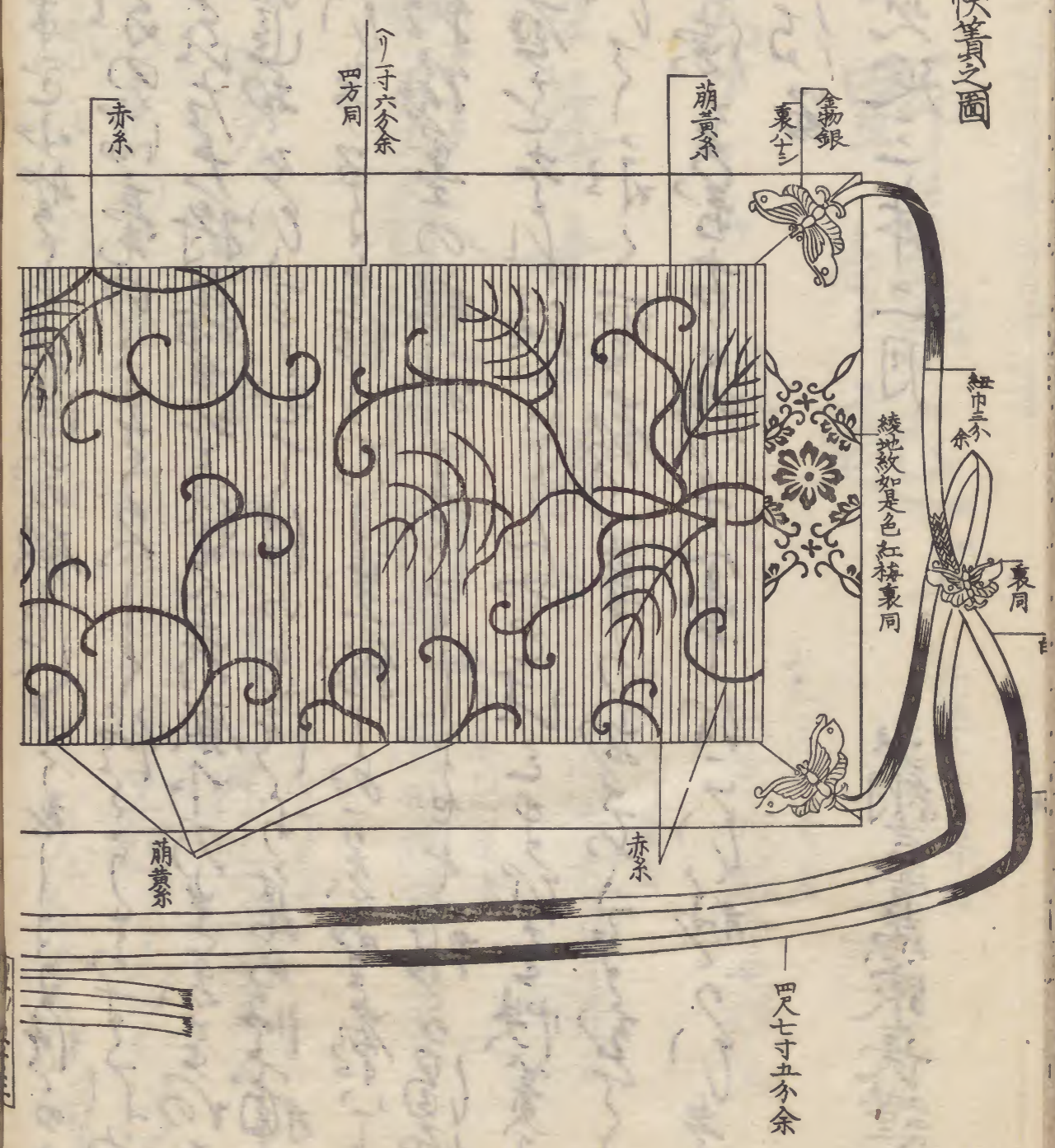
十日祀之

卷

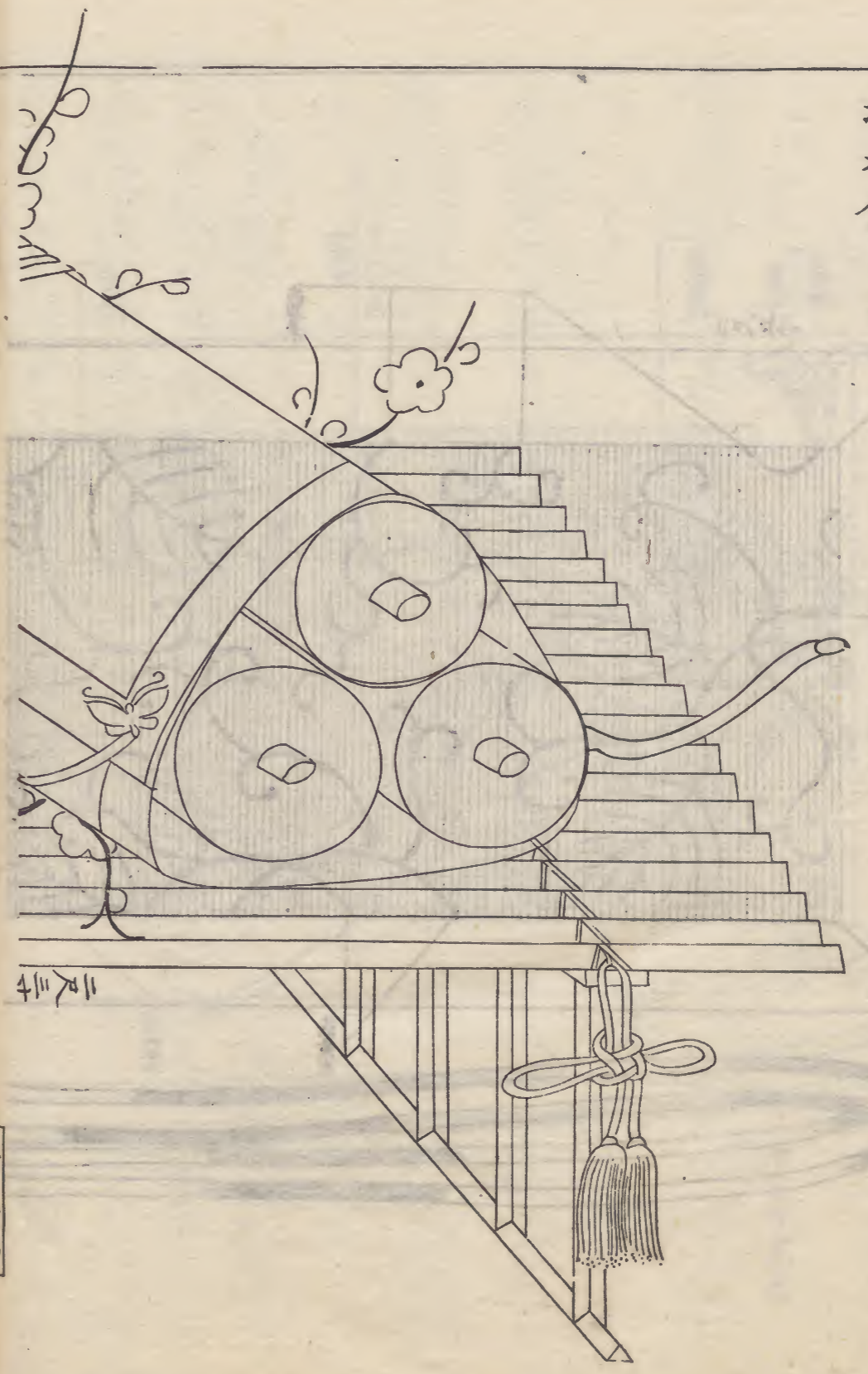
松梅院藏本與書 道遥院實隆公筆 縮寫



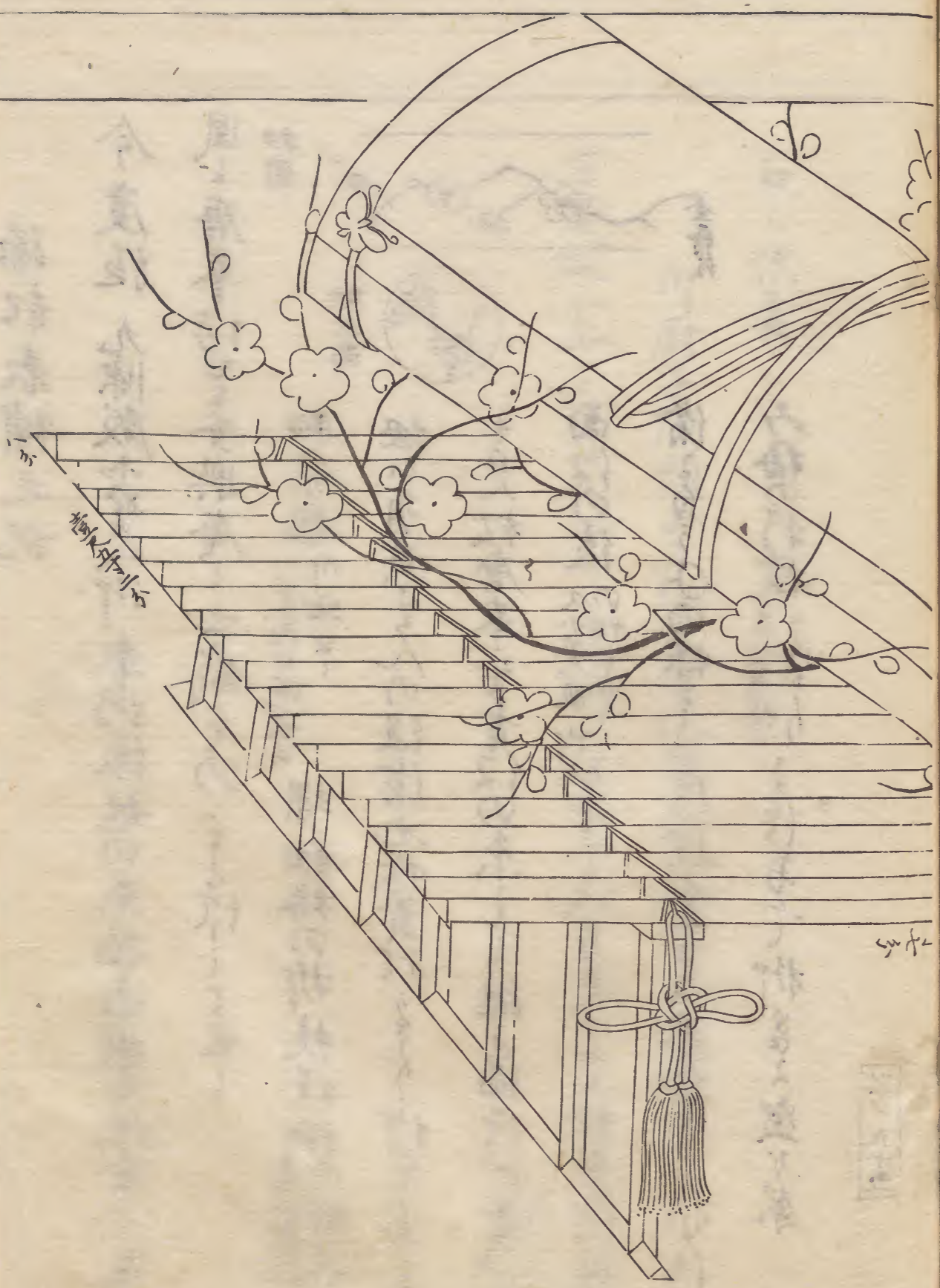
同帙簪之圖



折枝飾付之圖



尺三寸



折枝飾付之圖



縁起表補之記

今度迄九條殿御所奉納縁起の巻物表紙白地金文鳳  
凰と唐草の御安樂庵と云織そのうけいと云

軸圍

軸正面



金唐草

軸紫檀

所堂園白道長云

螺鈿梅の折枝

東山義政云

紐ハ菊黄きんの組緒也帙篋はきり竹をきり

そん松唐草を青紅の糸にて縫編はけ貫れ

面紅の綾又小葵服所の切りをきりて紅きんの組

緒は白きみの蝶をきり三巻を巻物をきり

み梅の折枝花は具枝のきりをきりて柳葉を盛り糸

ツノ五十五

右し帙篋

御厨子所預正五位下若狭守宗直細工之調進也

官寛延三年三月廿四日正四位下若狭守刺史源朝恭長為校鑑

誌之

ノハトニ

